

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	東海大学
設置者名	学校法人東海大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
文学部	文明学科	夜・通信		10/12	4/4	14/16	13	
	アジア文明学科	夜・通信		14	4	18	13	
	ヨーロッパ文明学科	夜・通信		14	4	18	13	
	アメリカ文明学科	夜・通信		10	4	14	13	
	北欧学科	夜・通信		18	0	18	13	
	歴史学科 日本史専攻	夜・通信		16/10	0/4	16/14	13	
	歴史学科 東洋史専攻	夜・通信		14	4	18	13	
	歴史学科 西洋史専攻	夜・通信		12/10	4/4	16/14	13	
	歴史学科 考古学専攻	夜・通信		12/16	4/4	16/20	13	
	日本文学科	夜・通信		14/14		14/14	13	
	文芸創作学科	夜・通信		16	2	18	13	
	英語文化コミュニケーション学科	夜・通信		14/14		14/14	13	
	広報メディア学科	夜・通信		16	4	20	13	
	心理・社会学科	夜・通信		4	12	16	13	
文化社会学部	アジア学科	夜・通信		10	4	14	13	

	ヨーロッパ・アメリカ学科	夜・通信		16	0	16	13	
	北欧学科	夜・通信		14	0	14	13	
	文芸創作学科	夜・通信		14	2	16	13	
	広報メディア学科	夜・通信		12	4	16	13	
	心理・社会学科	夜・通信		4	12	16	13	
政治経済学部	政治学科	夜・通信		12/12	4/4	16/16	13	
	経済学科	夜・通信		12/10	4/4	16/14	13	
	経営学科	夜・通信		12/14	4/0	16/14	13	
法学部	法律学科	夜・通信		12/16	4/0	16/16	13	
教養学部	人間環境学科 自然環境課程	夜・通信		10/10	4/4	14/14	13	
	人間環境学科 社会環境課程	夜・通信		10/10	4/4	14/14	13	
	芸術学科 音楽学課程	夜・通信		2/4	12/12	14/16	13	
	芸術学科 美術学課程	夜・通信		6/0	8/14	14/14	13	
	芸術学科 デザイン学課程	夜・通信			16/16	16/16	13	
	国際学科	夜・通信		14/14		14/14	13	
体育学部	体育学科	夜・通信		14/14		14/14	13	
	競技スポーツ学科	夜・通信		14/16		14/16	13	
	武道学科	夜・通信		13/13		13/13	13	
	生涯スポーツ学科	夜・通信		16/16		16/16	13	
	スポーツ・レジャーマネジメント	夜・通信		14/14	0/1	14/15	13	

	学科							
健康学部	健康マネジメント学科	夜・通信		14	1	15	13	
理学部	数学科	夜・通信		14/14		14/14	13	
	情報数理学科	夜・通信		14/14		14/14	13	
	物理学科	夜・通信		14/14		14/14	13	
	化学科	夜・通信		14/14		14/14	13	
情報理工学部	情報科学科	夜・通信		12/8	2/6	14/14	13	
	コンピュータ応用工学科	夜・通信		14/12	0/2	14/14	13	
工学部	生命化学科	夜・通信		14/4	0/10	14/14	13	
	応用化学科	夜・通信		12/10	4/6	16/16	13	
	光・画像工学科	夜・通信		16/12	0/2	16/14	13	
	原子力工学科	夜・通信		14/14		14/14	13	
	電気電子工学科	夜・通信		14/14	2/0	16/14	13	
	材料科学科	夜・通信		10/12	4/4	14/16	13	
	建築学科	夜・通信		16/14		16/14	13	
	土木工学科	夜・通信		12/12	2/2	14/14	13	
	精密工学科	夜・通信		14/16		14/16	13	
	機械工学科	夜・通信		14/14	2/2	16/16	13	
	動力機械工学科	夜・通信		14/12	0/4	14/16	13	
	航空宇宙学科 航空宇宙学専攻	夜・通信		12/14	2/0	14/14	13	
	航空宇宙学科 航空操縦学専攻	夜・通信		10/12	4/2	14/14	13	

	医用生体工 学科	夜・ 通信		13/14		13/14	13	
観光学部	観光学科	夜・ 通信		16/16		16/16	13	
情報通信学部	情報メデ ィア学科	夜・ 通信		16/16		16/16	13	
	組込みソフ トウェア工 学科	夜・ 通信		18/8	0/8	18/16	13	
	経営システ ム工学科	夜・ 通信		14/14		14/14	13	
	通信ネット ワーク工学 科	夜・ 通信		14/14		14/14	13	
海洋学部	海洋文明学 科	夜・ 通信		14/12	2/4	16/16	13	
	環境社会学 科	夜・ 通信		16/16		16/16	13	
	海洋地球科 学学科	夜・ 通信		18/14	2/2	20/16	13	
	水産学科 生物生産学 専攻	夜・ 通信		16/16	2/0	18/16	13	
	水産学科 食品科学専 攻	夜・ 通信		14/16	2/0	16/16	13	
	海洋生物学 科	夜・ 通信		14/14	2/2	16/16	13	
	航海工学科 航海学専攻	夜・ 通信		16/14		16/14	13	
	航海工学科 海洋機械工 学専攻	夜・ 通信		14/14		14/14	13	
医学部	医学科	夜・ 通信		0	39	39	19	
	看護学科	夜・ 通信		0	13	13	13	
健康科学部	看護学科	夜・ 通信		0	13	13	13	
	社会福祉学 科	夜・ 通信		0	15	15	13	
経営学部	経営学科	夜・ 通信		18/14		18/14	13	
	観光ビジネ ス学科	夜・ 通信		16/12	0/2	16/14	13	

基盤工学部	電気電子情報工学科	夜・通信		16/14		16/14	13	
	医療福祉工学科	夜・通信		10/10	6/4	16/14	13	
農学部	応用植物科学科	夜・通信		12/14	2/0	14/14	13	
	応用動物科学科	夜・通信		16/14		16/14	13	
	バイオサイエンス学科	夜・通信		14/14		14/14	13	
国際文化学部	地域創造学科	夜・通信		13/13		13/13	13	
	国際コミュニケーション学科	夜・通信		14/14		14/14	13	
	デザイン文化学科	夜・通信		14/14		14/14	13	
生物学部	生物学科	夜・通信		14/12	0/2	14/14	13	
	海洋生物科学科	夜・通信		12/10	2/4	14/14	13	

(備考)
計上数値については、以下の通り記載。

旧課程での単位数/新課程での単位数

文学部アジア文明学科、ヨーロッパ文明学科、アメリカ文明学科、北欧学科、歴史学科東洋史専攻、文芸創作学科、広報メディア学科、心理・社会学科、健康科学部看護学科、
社会福祉学科は、2018年度学生募集停止

文化社会学部アジア学科、ヨーロッパ・アメリカ学科、北欧学科、文芸創作学科、広報メディア学科、心理・社会学科、健康学部、医学部看護学科は、2018年度設置。

その他の学部は、2018年度カリキュラム改訂のため、1・2・3年次は新課程、4年次は旧課程。

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.u-tokai.ac.jp/public_information/scholastic_support/

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	東海大学
設置者名	学校法人東海大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.tokai.ac.jp/about/trustee/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	東京 MX テレビ株式会社 代表取締役会長 株式会社エフエム東京 名誉相談役	2018.5.25 ～ 2022.5.24	法人運営の執行管理
非常勤	株式会社新宿高野代表 取締役社長 東海大学同窓会会長	2018.5.25 ～ 2022.5.24	法人運営の執行管理
非常勤	弁護士	2018.5.25 ～ 2022.5.24	法人運営の執行管理
(備考) 「前職又は現職」については、現職を記入。			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	東海大学
設置者名	学校法人東海大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 本学では、教育課程年度ならびに開講授業科目毎にシラバスを作成・公表している。 シラバスの内容は、授業の目標、先修条件または他の授業科目との関連、履修のポイント・留意事項、担当教員名、テーマ、キーワード、授業要旨または授業概要、学修の到達目標、授業計画(スケジュール、予習・復習、集中授業の期間)、履修上の注意点、成績評価の基準および方法、教科書・参考書、その他の教材である。 シラバスは、担当教員がシラバスデータベースシステム上で上記項目を入力後、科目管理者が点検・承認するというプロセスを経て公開される。 公表時期については、当該授業科目開講前に本学ホームページへ掲載し、広く周知している。</p>	
授業計画書の公表方法	https://www24.tsc.u-tokai.ac.jp/syllabus/SYLSCHTOP
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 各科目の成績評価の客観性や厳格性を担保するために、シラバスに成績評価の基準が明記され、適性に成績評価がなされている。 また、学修成果の評価のひとつとしてGPA制を導入しており、修得単位数と合わせて、学修の評価基準となっている。</p>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

本学ではGPA制度を導入している。GPA制度の評価方法は、科目の成績を5段階で評価したものに、S=4、A=3、B=2、C=1、D・E=0のグレード・ポイント(GP)を付与し、その科目のGPに各授業科目単位数を乗じて、その総和を登録科目総単位数で割って算出する。

成績表には、セメスターごとに履修した対象科目を基にした「学期GPA」と、入学後から現在までに履修した全ての科目(累積成績)を基にした「通算GPA」が記載されている。大学生活全般の履歴は「通算GPA」が、現在の学修状況を確認するには「学期GPA」が参考になる。GPA値により得られる評価は下記のとおりとなり、学修状況を把握することができる。「学期GPA」のセメスターごとの推移を見ることで、「上り調子」「下降している」等が判断できる。

4.0～3.0

S評価～A評価を平均的に修得 非常に優秀。問題はない。

2.9～2.0

A評価～B評価を平均的に修得 問題はないが、セメスターごとに下がってきている場合は注意が必要。

1.9～1.0

B評価～C評価を平均的に修得 ぎりぎり合格しているレベル。本人の学修姿勢により、急激に不合格が増える可能性もあり注意が必要。

0.9～

不合格の割合が多い 学習面、生活面で問題を抱えている場合が多い。指導対象にもなるため、学修状況や生活面での見直しが必要となる。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

本学ホームページにて公開

(https://www.u-tokai.ac.jp/campus_life/education/gpa/)

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本学は、創立者松前重義の示した建学の精神を受け継ぎ「明日の歴史を担う強い使命感と豊かな人間性をもった人材を育てること」を目指している。そのために、大学として、教育目標と学位授与方針及び育成する人材像（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー）として明確に設定している。</p> <p>ディプロマ・ポリシーの内容は次の通りである。</p> <p>(知識・理解)</p> <p>専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解し、文理融合の幅広い教養を身につけている。</p> <p>(汎用的技能)</p> <p><自ら考える力>常に未来を見据え自らが取り組むべき課題を探求することができる。</p> <p><集い力>多様な人々の力を集結することができる。</p> <p><挑み力>困難かつ大きな課題に勇気をもって挑戦することができる。</p> <p><成し遂げ力>失敗や挫折を乗り越えて目標を実現していくことができる。</p> <p>(態度・志向性)</p> <p>自らの考えをもち、時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、改善していく自主性や創造性を身につけている。</p> <p>なお、卒業要件については、学則並びに授業要覧に、卒業単位数を修得し、所定の試験に合格すること等が明示されている。学部及び大学での卒業判定会議を行っており、卒業判定を適切に行うための措置がなされて、適切な学位授与が行われている。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>本学ホームページにて公開 (https://www.u-tokai.ac.jp/about/policy/) 及び各学部ページに掲載</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	東海大学
設置者名	学校法人東海大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.tokai.ac.jp/information/financial_data/
収支計算書又は損益計算書	https://www.tokai.ac.jp/information/financial_data/
財産目録	https://www.tokai.ac.jp/information/financial_data/
事業報告書	https://www.tokai.ac.jp/information/financial_data/
監事による監査報告(書)	https://www.tokai.ac.jp/information/financial_data/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.u-tokai.ac.jp/effort/activity/annual_report/2018/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.u-tokai.ac.jp/effort/activity/self_assessment/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 文学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/letters/educationpolicy.html ）
（概要） 文学部の教育研究上の目的は、建学の精神及びそれらを具現化した 4 つの力を踏まえ、人文科学に関する幅広い教養と高度な専門的知識および的確な分析法を身につけ、現代社会が抱える多様な諸問題と向き合い、問題の根幹はどこにあるのかを正しく理解し、課題を見据え、対処策や解決法を導き出せる創造力と実行力をもった人材を養成することです。
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/letters/educationpolicy.html ）
（概要） 文学部では、本学の学位授与の方針に従い、以下の能力を備えたと認められる者に学位を授与します。 『知識・理解』 人類の叡智と歴史認識とを学び、人文学の各専門分野において自らの問題意識に則して現代社会の諸問題を的確に理解する基礎能力。 『汎用的技能』 主体的に設定した専門分野の課題を論理的に分析・考察し、自らの見解を様々な表現形式を通じて積極的に発信してゆく能力。 『態度・志向性』 激しく変動する現代社会の課題と主体的に向き合い、新たな世界の構築に貢献しようとする姿勢。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/letters/educationpolicy.html ）
（概要） 文学部が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。 『教育課程・学修成果』 人類の叡智と歴史認識は、文字や言葉に置き換えられて初めて意味を発揮しますので、文学部では「ことばを大切にすること」を教育編成の基本に据えています。この方針に則し、基礎知識を習得させるために学部教養科目「知のフロンティア」・「ことばの世界」を設置しています。併せて日本語については「文章表現法」と「古文基礎」を設置しています。また外国語科目については、古代語に基づく教養教育を重視するとともに多言語主義を尊重し「ペルシア語入門 1」「ギリシア語入門 1・2」など 9 科目を配置しています。 初年次の教育科目としては、全学科・専攻共通で「入門」科目を必修科目

として開設し、学科・専攻それぞれに求められる基礎的素養の修得を図っています。

主専攻科目としては学科・専攻別に各分野の専門的な知識と理論・実践法を系統立って修得させ、論理的な分析と考察を進める能力を培うため、講義科目と演習科目群を適切に配置しています。併せて自らの見解を的確な表現に沿って他者に伝える技術を習得させる科目を配置することで、現代社会が求める課題と主体的に向き合う力を修得させます。

本学部が設定する所定の単位を取得し、最終試験もしくは卒業論文に合格した者に「文学士」の資格(大学認定)が認定されます。

『学修成果の評価方法』

本学部のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD活動等とおして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/letters/educationpolicy.html>）

（概要）

文学部の教育研究上の目的及び養成する人材像を理解し、これらを達成するために自ら学ぶ意欲をもった人を求めます。

『求める学生像』

文学部で定めている学位授与のために求められている能力を身に付けることが期待でき、基礎学力が十分にある人材。

『入学者に求める知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

（1）知識・技能

英語では、高校での英語の科目の履修を通して英語力の文章理解力、表現力、コミュニケーション力を身につけておくことが望ましい。

国語では、高校での国語の履修を通して日本語の文章理解力、表現力、コミュニケーション力を身につけておくことが望ましい。

社会では、高校での社会（世界史、日本史、地理、政治・経済、倫理、現代社会）の科目の中から数科目を選択し、個々の項目の内容を理解していることが望ましい。

数学及び理科については、文系の学問を学ぶ上で必要な自然科学的な知識を幅広く理解していることが望ましい。

（2）思考力・判断力・表現力

文理融合の観点から、理系の知識・技能と文系の知識・技能を総合して応用できること、及びそれらの発信ができることが望ましい。

（3）主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

多様な価値観を理解し、友好的な人間関係を構築できること、物事に対して主体的に取り組む態度、及び失敗や挫折を乗り越えて目標を実現しようとする忍耐力をもつことが望ましい。

学部等名 文化社会学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/cultural_and_social_studies/educationpolicy.html ）
<p>（概要）</p> <p>文化社会学部の教育研究上の目的は、創立者の「人類の幸福と恒久平和の実現を目指した精神文明と物質文明の融合による総合文明社会の構築」という理念を立脚点とし、建学の精神及びそれらを具現化した4つの力を踏まえ、人文社会系の研究・教育の成果を土台としつつ、（1）多文化理解の促進、（2）高度な言語表現力の育成、（3）メディアの理解・利用・創造、（4）自立と共生を実現する知識と力、を柱とする研究教育を通じて、人・社会・自然の共生に立脚した社会生活の基盤の構築に寄与できる人材を養成することです。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/cultural_and_social_studies/educationpolicy.html ）
<p>（概要）</p> <p>文化社会学部では、本学の学位授与の方針に従い、以下の能力を備えたと認められる者に学位を授与します。</p> <p>『知識・理解』 自立と共生を実現するための知識を学び、多文化を理解するための基礎的能力。</p> <p>『汎用的技能』 様々なコミュニケーション手段を活用して、自らの見解を発信する能力。</p> <p>『態度・志向性』 人・社会・自然の共生に立脚した社会生活の基盤の構築に寄与しようとする姿勢。</p>
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/cultural_and_social_studies/educationpolicy.html ）
<p>（概要）</p> <p>文化社会学部が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。</p> <p>『教育課程・学修成果』</p> <p>本学においては、現代市民として身に付けるべき教養を修得するための方策として「パブリック・アチーブメント型教育」の導入を掲げています。「パブリック・アチーブメント」とは、米国では、立場や状況の異なる市民が社会で共存するためのルールを作り、環境整備を行う中で、若者が社会活動を通して民主社会における市民性を獲得していくための実践及びそのための組織と学習プログラムを意味しています。本学では、日本という成熟した社会における若者の自己中心主義・政治的無関心・無気力感を克服し、「教育による政治革命—教育の力によって、長い時間をかけて平和と理解の中に革命を進行させ、それを通じて新しい理想に向かって歩む」（本学創設者松前重義の言葉）を実現するための取り組みとして、「地域」の課題への取り組みをテーマとする科目を教養科目に開設し、ここで育て</p>

た問題意識や目的意識のもと専門教育へと展開し、教養教育と専門教育の融合・発展と、その相乗効果による教育効果の向上を図ります。
本学部では、上記のパブリック・アチーブメント型教育を中心とする教養科目を「人・社会・自然の共生に立脚した社会生活の基盤の構築に寄与できる人材」育成の基礎にあたる教育と位置づけ、主専攻科目（専門科目）において、学際的な視点から、グローバル化とデジタル化がもたらす現代社会における様々な課題に対して、文化、すなわち人々のものの見方や考え方をつくりあげる生活様式に焦点を当てた教育研究を展開することで、知識・考える力・実践力を身につけていきます。

『学修成果の評価方法』

本学部のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD活動等とおして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげています

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/cultural_and_social_studies/educationpolicy.html）

（概要）

文化社会学部の教育研究上の目的及び養成する人材像を理解し、これらを達成するために自ら学ぶ意欲をもった人を求めます。

『求める学生像』

文化社会学部で定めている学位授与のために求められている能力を身に付けることが期待でき、基礎学力が十分にある人材。

『入学者に求める知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

（1）知識・技能

英語については、高校での英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

国語については、高校での国語の履修を通して日本語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

社会については、高校での社会（世界史、日本史、地理、政治・経済、倫理、現代社会）の科目の中から数科目を選択し、個々の項目の内容を理解していることが望ましい。

数学及び理科については、文系の学問を学ぶ上で必要な自然科学的な知識を幅広く理解していることが望ましい。

（2）思考力・判断力・表現力

文理融合の観点から、理系の知識・技能と文系の知識・技能を総合して応用できること、及び、それらの発言ができることが期待できること。

（3）主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

多様な価値観を理解し、友好的人間関係を築くことができること、物事に対して挑戦的に取り組むこと、及び、失敗や挫折を乗り越えて目標を実現しようとするのが期待できること。

学部等名 政治経済学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/political_science_and_eco/educationpolicy.html ）
<p>（概要）</p> <p>政治経済学部の教育研究上の目的は、建学の精神及びそれらを具現化した4つの力を踏まえ、我が国および国際社会の一層の発展と向上に寄与する「冷静な頭脳と温かい心」に立脚し「社会力」をもった人材を養成することです。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/political_science_and_eco/educationpolicy.html ）
<p>（概要）</p> <p>政治経済学部では、本学の学位授与の方針に従い、以下の能力を備えたと認められる者に学位を授与します。</p> <p>『知識・理解』 社会科学に関する知識を活用し、社会環境の変化とそれにともなって生ずる課題を理解・表現することができる。</p> <p>『汎用的技能』 専門分野の研究成果にもとづき、国内外で生ずる諸課題について解決策を考えることができる。</p> <p>『態度・志向性』 「冷静な頭脳と温かい心」に立脚し、時代の状況に応じて社会に貢献することができる。</p>
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/political_science_and_eco/educationpolicy.html ）
<p>（概要）</p> <p>政治経済学部が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。</p> <p>『教育課程・学修成果』</p> <p>本学部では、カリキュラム・ポリシーを「社会科学の問題意識と自然科学の発想の統合を図るためには、現実には鋭い批判の目を向け、問題を発見することであり、データを重視した数量的分析を試みると共に、現実に定義された概念を用いて体系的な理論構築を目指す努力をすることで、人間と社会と自然との調和を念頭に置いた、より現代的、科学的な社会科学の確立と教育を実施する」としています。これを具現化するために、学部では主として以下のように授業を編成しています。</p> <p>初年次教育科目としては、「情報処理1」を必修科目として設置し、基礎的なコンピュータ・スキルの修得および情報リテラシー教育の充実を図っています。また、各学科では少人数クラスの「入門ゼミナール」を必修科目として設置し、大学生としての基礎的な学修方法の習得、学科の教育内容の基礎に関する理解、キャリア意識の形成などに注力しています。</p> <p>3・4年次では各学科において少人数クラスの「専門ゼミナール」を必修科目として設置し、学生の関心に応じて2年間にわたって同一教員の指導を受けます。このゼミナールを通じて専門領域の学修を深めるとともに、</p>

プレゼンテーション能力、文章力などの向上に努めており、最終的かつ総合的に学修の成果が評価されます。

『学修成果の評価方法』

本学部のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD活動等をとおして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/political_science_and_eco/educationpolicy.html）

（概要）

政治経済学部での教育研究上の目的及び養成する人材像を理解し、これらを達成するために自ら学ぶ意欲をもった人を求めます。

『求める学生像』

政治経済学部で定めている学位授与のために求められている能力を身に付けることが期待でき、基礎学力が十分にある人材。

『入学者に求める知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

（1）知識・技能

英語については、高校（あるいはそれと同等レベル）での科目履修を通じて、文章理解力、表現力、コミュニケーション能力の基礎を身につけておくことが望ましい。

国語については、高校（あるいはそれと同等レベル）での科目履修を通じて、日本語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力の基礎を身につけておくことが望ましい。

社会については、高校（あるいはそれと同等レベル）での科目履修（世界史、日本史、地理、政治・経済、倫理、現代社会の中から数科目）を通じて、政治、経済、経営に関する内容の基礎を理解していることが望ましい。数学および理科については、文系の学問を学ぶ上で必要な自然科学的知識を幅広く理解していることが望ましい。

（2）思考力・判断力・表現力

社会で発生する様々な課題に対して自分なりに考え、どのような解決策が望ましいかを文系・理系の知識・技能を総合して判断し、適切に表現できること。

（3）主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

自ら積極的に物事に対して取り組み、多様な価値観を理解・共有して友好的な人間関係を構築できること、および目標を実現するために継続的に努力すること。

学部等名 法学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/law/educationpolicy.html ）
<p>（概要）</p> <p>法学部法律学科の教育研究上の目的は、建学の精神及びそれらを具現化した4つの力を踏まえ、法学的な素養と能力を生かして自分自身の人間的な成長と発展を遂げるとともに、その活動を通して自分が所属する団体・企業、地域社会の発展、ひいては日本及び国際社会の発展に寄与しうる人材を育成することです。具体的には、法学的素養及びリーガルマインドに基づいた提案や問題の処理ができる人材、及び、人間の尊厳と人権の尊重を基調とする現代の社会で責任をもって活動できる自立した人材を養成することです。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/law/educationpolicy.html ）
<p>（概要）</p> <p>法学部法律学科では、本学の学位授与の方針に従い、以下の能力を備えたと認められる者に学位を授与します。</p> <p>『知識・理解』 法学についての知識、時代の変化に対応する法の役割を理解・表現する基礎能力。</p> <p>『汎用的技能』 法学的素養及びリーガルマインドに基づいた提案や問題の処理ができる技能。</p> <p>『態度・志向性』 人間の尊厳と人権の尊重を基調とする現代の社会で責任を持って行動できる自立力。</p>
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/law/educationpolicy.html ）
<p>（概要）</p> <p>法学部法律学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。</p> <p>『教育課程・学修成果』</p> <p>本学部の教育の基礎となる、法学についての知識、時代の変化に対応する法の役割を理解・表現する基礎能力を修得するために、「法学基礎演習1」、「刑事法入門」等の必修科目・初年次教育科目を設けています。また、法学的素養及びリーガルマインドに基づいた提案や問題の処理ができる技能を身につけるとともに、人間の尊厳と人権の尊重を基調とする現代の社会で責任を持って行動できる自立力を育成するために、発展的法律知識、分析展開力、多元的総合的考察力、グローバルな視野および対話・プレゼンテーション力の修得を学修成果とする多様な選択科目（講義科目、演習）を開講し、全体を通じて各種授業科目を体系的に配置した教育課程を編成しています。</p>

2018年度からのカリキュラムにおいては、すべての法学部生が憲法・民法・刑法などの基本的な法律についての知識を確実に身につけるとともに、卒業後、法曹・公務員として活躍できる能力を身につけるための法職・公務員コース、企業において法律学的素養を生かして活躍できる能力を身につけるための企業法務コース、国際社会において法律学的素養を生かして活躍できる能力を身につけるための国際関係コースの3コースを設けます（選択必修の科目グループを活用したゆるやかなコース制）。また、大教室における講義だけではなく、少人数のきめ細かな教育を実現する科目として、従来の法学基礎演習、専門演習等に加え、合計20単位の特論科目を設けます。特論科目は、企業法務コースおよび法職・公務員コースで開講し、とくに後者においてはコースの中核を担います。

『学修成果の評価方法』

本学部のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD活動等とおして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/law/educationpolicy.html>）

（概要）

法学部法律学科の教育研究上の目的及び養成する人材像を理解し、これらを達成するために自ら学ぶ意欲をもった人を求めます。

『求める学生像』

法学部法律学科で定めている学位授与のために求められている能力を身に付けることが期待でき、基礎学力が十分にある人材。

『入学者に求める知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

（1）知識・技能

英語では、高校での英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

国語では、高校での国語の履修を通して日本語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

社会では、高校での社会（世界史、日本史、地理、政治・経済、倫理、現代社会）の科目の中から数科目を選択し、個々の項目の内容を理解していることが望ましい。

数学及び理科は、文系の学問を学ぶ上で必要な自然科学的な知識を幅広く理解していることが望ましい。

（2）思考力・判断力・表現力

文理融合の観点から、文系の知識・技能と理系の知識・技能を総合して応用できること及びそれらの発信ができることが期待できること。

（3）主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

多様な価値観を理解し、良好な人間関係を築くことができること、物事に対して挑戦的に取り組むこと及び失敗や挫折を乗り越えて目標を実現しようとするのが期待できること。

学部等名 教養学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/humanities_and_culture/educationpolicy.html ）
<p>（概要）</p> <p>教養学部在教育研究上の目的は、建学の精神及びそれらを具現化した4つの力を踏まえ、学科・課程における専門性を基礎として、自らの社会的役割を自覚し、国際性と独創性、創造性を有した人材を、学際的かつ実践的な教育を通して養成することです。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/humanities_and_culture/educationpolicy.html ）
<p>（概要）</p> <p>教養学部では、本学の学位授与の方針に従い、以下の能力を備えたと認められる者に学位を授与します。</p> <p>『知識・理解』 社会的な広い視野・自身の専門に関する知識と理解力。</p> <p>『汎用的技能』 変化する現代社会の状況を理解して柔軟に対応する技能。</p> <p>『態度・志向性』 問題発見・解決に向けて自らの社会的役割を自覚し行動しようとする姿勢。</p>
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/humanities_and_culture/educationpolicy.html ）
<p>（概要）</p> <p>教養学部が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。</p> <p>『教育課程・学修成果』</p> <p>教養学部では、教育体系の一貫として「SOHUMプログラム」(Social Humanware：『社会的な広い視野と自身の専門を生かした視点を併せ持ち、状況を理解して社会の変化に柔軟に対応し、問題解決に向けて自らの社会的役割を自覚し行動できる能力』を有する人材の育成)を掲げています。社会的な広い視野・自身の専門に関する知識と理解力を修得するため、第2 Semesterに学部共通科目として「人間社会論」を必修で置き、「人間社会の望ましい発展とその方向性」に関する知識が習得できるよう学習過程を構築しています。この科目は全学必修の「現代文明論」と連携しつつ、各学科課程で展開する専門教育との学際的な関わりを明確化し、変化する現代社会の状況を理解して柔軟に対応する技能などを学生に教授することを目的としており「SOHUMプログラム」の導入部に当たっています。第3 Semesterには、「SOHUMプログラム」を能動的に学習し、問題発見・解決に向けて自らの社会的役割を自覚し行動するための学部共通科目として、「人間学1」を必修として設置しています。さらに第5 Semester以降には、実践的なプロジェクト科目として「人間学2」を選択科目として</p>

設定しています。これら「人間学」での学びを通して、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を育成しています。

また初年次教育科目としては、全ての学科課程で「初年次ゼミ」もしくは「入門ゼミ」を必修科目として設定し、学科課程における教育課程や研究内容に対する理解、キャリア意識の形成等を図っています。

更に4年次には、専門教育課程の集大成として「卒業研究」等が全学科課程で必修科目として開講されており、最終的かつ総合的に学修の成果が評価されます。

『学修成果の評価方法』

本学部のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD活動等とおして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/humanities_and_culture/educationpolicy.html）

（概要）

教養学部の教育研究上の目的及び養成する人材像を理解し、これらを達成するために自ら学ぶ意欲をもった人を求めます。

『求める学生像』

教養学部で定めている学位授与のために求められている能力を身に付けることが期待でき、基礎学力が十分にある人材。

『入学者に求める知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

教養学部は学科・課程における専門性を基礎とする学際的な学部です。入学者に求める知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度などに関しては、各学科課程がそれぞれに定めています。

学部等名 体育学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/physical_education/educationpolicy.html ）
<p>（概要）</p> <p>体育学部の教育研究上の目的は、建学の精神及びそれらを具現化した4つの力を踏まえ、体育・スポーツ科学の学修を通じて、その知識・技能・態度を修得すると同時に心身を錬磨し、これらの英知を生かして柔軟な思考力と国際性豊かな視野、さらには総合的判断能力を有する人材を育成すると共に、体育・スポーツ科学の専門家として、指導的・実践的な役割を果たし、平和で健康的な社会の創造に貢献することのできる人材を養成することです。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/physical_education/educationpolicy.html ）
<p>（概要）</p> <p>体育学部では、本学の学位授与の方針に従い、以下の能力を備えたと認められる者に学位を授与します。</p> <p>『知識・理解』</p> <p>体育・スポーツ科学についての基礎的知識を有し、かつ、問題の所在や問題解決の方策を探るために必要な理解力や思考・判断力を有している。</p> <p>『汎用的技能』</p> <p>時代の変化に対応しつつ、体育・スポーツの発展のみならず、人々の健康と幸福に貢献しうる身体・精神・技能を有している。</p> <p>『態度・志向性』</p> <p>体育・スポーツ科学に関心を持って学び続け、より良い人間関係や社会を積極的に構築できる態度・志向性を有している。</p>
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/physical_education/educationpolicy.html ）
<p>（概要）</p> <p>体育学部が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。</p> <p>『教育課程・学修成果』</p> <p>本学部における教育課程においては、学部共通科目を設置し、体育学部全体としての学修課程を体系的かつ連携的に設定しています。体育・スポーツ科学に関心を持った学びが初年次より始められるように、初年次教育科目として「体育・スポーツ総論」を開講します。</p> <p>また、体育・スポーツ科学についての基礎的知識を修得するために、その基幹科目である「スポーツ哲学」「スポーツ社会学」を必修とするほか、基本的内容で専門教育課程につながる科目を選択必修として開講します。</p> <p>さらに学部共通科目は4年間を通じて履修できるよう配置しています。その科目は、体育・スポーツ科学に関する理論だけではなく、スポーツの実践・指導力を高める科目、健康に関する科目、レジャー・レクリエーションに関する科目など多岐にわたっており、体育・スポーツの発展のみならず、人々の健康や幸福に貢献できる身体・精神・技能を養っていきます。</p>

加えて、「理論及び実習」の科目では、身体活動を通してより良い人間関係や社会を積極的に構築できる態度や志向性の獲得を目指します。

3年次以降、全学科では研究ゼミナールを必修科目として開講しており、専門教育課程の集大成として卒業研究を行うこととなります。そこでは、問題の所在や問題解決の方策を探るために必要な理解力、思考力、判断力などが育成され、最終的かつ総合的に学修の成果が判断されます。

この教育課程はカリキュラム・マップによって可視化され、さらに系統的な履修指導によって、学生による能動的学修を促し、学修成果の向上に努めます。

『学修成果の評価方法』

本学部のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD活動等とおして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/physical_education/educationpolicy.html）

（概要）

体育学部の教育研究上の目的及び養成する人材像を理解し、これらを達成するために自ら学ぶ意欲をもった人を求めます。

『求める学生像』

体育学部で定めている学位授与のために求められている能力を身に付けることが期待でき、基礎学力が十分にある人材を求めます。

『入学者に求める知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

（1）知識・技能

英語では、高校での英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身に付けていることが望まれます。

国語あるいは、数学のいずれかにおいては、次のことが望まれます。国語では、高校での国語の履修を通して日本語の文章表現能力、表現力、コミュニケーション能力を身に付けていること。数学では、高校での数学の履修を通して公式や計算方法を理解した上で、それらを応用できる能力を身に付けていること。

また、体育学部においてその専門性をより高めるために、基礎的な実技能力を有していることが望まれます。

（2）思考力・判断力・表現力

文理融合の観点から、文系の知識・技能と理系の知識・技能を総合して応用できること、及び、それらを発信できることが望まれます。

また、体育・スポーツ科学に対する興味・関心を持ち、新たな知識・技能を積極的に実践できる力を有していることが望まれます。

（3）主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

体育・スポーツの特性を理解し、その活動を通して多様な価値観を容認して友好的人間関係を築くことができること、また、その活動に対して挑戦

的に取り組むことができること、さらに活動時に生じる失敗や挫折を乗り越えて目標を実現しようと努力できる能力が望まれます。

<p>学部等名 健康学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/health_studies/educationpolicy.html）</p>
<p>（概要）</p> <p>健康学部健康マネジメント学科の教育研究上の目的は、建学の精神及びそれらを具現化した4つの力を踏まえ、「健康社会」の実現を目指し、身体的健康、精神的健康、社会的健康で構成される「健康」を総合的に捉え、生じている諸問題の解決を目指していくことです。そして、健康社会の創生には不可欠である、“健康に関わる多様な分野の基礎知識・技能を併せ持ち”、“横断的に活用して連携協働できるネットワーク力”と、“サービスを複合的にコーディネートする力”を兼ね備えた、「健康をマネジメント」できる人材、すなわち、健康・予防に関するニーズを把握する能力、多様な分野の基礎知識・技能を併せ持ち、横断的に活用し、サービスをコーディネート、マネジメントできる能力（T字型能力）をもった人材を養成することです。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/health_studies/educationpolicy.html）</p>
<p>（概要）</p> <p>健康学部健康マネジメント学科では本学の学位授与の方針に従い、以下の能力を備えたと認められる者に学位を授与します。</p> <p>『知識・理解』</p> <p>健康の多角的な側面を総合的に捉え、健康社会の創生や健康産業への貢献に必要な実践的な能力を有している。</p> <p>『汎用的技能』</p> <p>健康に関わる多様な分野の基礎知識・技能を併せ持ち、横断的に分析・活用し、連携協働できるネットワーク力と、サービスを複合的にコーディネートし、マネジメントすることができる。</p> <p>『態度・志向性』</p> <p>誰もが自分らしく健康に過ごすことができる、共生的な「健康社会」の実現に向けた取り組みができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/health_studies/educationpolicy.html）</p>
<p>（概要）</p> <p>健康学部健康マネジメント学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。</p> <p>『教育課程・学修成果』</p> <p>教育研究上の目的及び養成する人材像』に定める「T字型能力」の養成を目的に、社会的な側面から健康を捉えていく「共通基礎」学科目、「現代社会の理解」学科目、「ソーシャルウェルネス」学科目をT字型能力の縦軸として配置し、幅広い健康分野の知識を身につけ、時代の変化を捉え、健康社会を実現するために必要な幅広い視野と専門性を身につけます。そして、T字型能力の横軸として「健康と運動」学科目、「メンタルヘルス」学科目、「健康と栄養」学科目を位置づけ、健康を構成する知識の幅と専門性</p>

をさらに広げていきます。これらの縦軸と横軸の接点として、相談援助と統計の知識を活用した「ソリューション（技法）」、「ソリューション（相談援助）」学科目を配置し、学生の個性にあわせた「T字型能力」を育成していきます。

加えて、専門性と広い知識をつなげていく「ゼミナール」学科目、より実践的に社会と学問をつなげていく「学外実習」学科目により、健康社会の創生に貢献できるネットワーク力、コーディネート力を育成し、自らが考えて実践する能力と、健康をマネジメントする力を育成するカリキュラムを編成しています。

『学修成果の評価方法』

本学部のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD活動等とおして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/health_studies/educationpolicy.html）

（概要）

健康学部健康マネジメント学科の教育研究上の目的及び養成する人材像を理解し、これらを達成するために自ら学ぶ意欲をもった人を求めます。

『求める学生像』

健康学部健康マネジメント学科で定めている学位授与のために求められている能力を身に付けることが期待でき、基礎学力が十分にある人材。

『入学者に求める知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

（1）知識・技能

英語では、高校の英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが求められます。

国語では、高校での国語の履修を通して日本語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが求められます。

社会では、高校での社会（世界史、日本史、地理、政治・経済、倫理、現代社会）の科目の中から選択し、個々の項目の内容を理解していることが求められます。

数学及び理科は、健康の総合性を理解する上で必要な自然科学的な知識（生物学など）を幅広く理解していることが求められます。

（2）思考力・判断力・表現力

文理融合の観点から、文系の知識・技能と理系の知識・技能を総合して応用できること、及び、それらを発信できることが求められます。

（3）主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

多様な価値観を理解する姿勢、良好な人間関係を築いていく姿勢、物事に対して挑戦的に取り組む姿勢、及び、失敗や挫折を乗り越えて目標を達成しようとする姿勢を持ち、自ら学ぶ意欲が求められます。

学部等名 理学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/science/educationpolicy.html ）
<p>（概要）</p> <p>理学部の教育研究上の目的は、建学の精神及びそれらを具現化した4つの力を踏まえ、理学部独自の内容を教育に生かした指導を行い「専門性に対応できる基礎力」「総合的な判断力」「協力し合って問題に対処できる能力」をもった人材を養成することです。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/science/educationpolicy.html ）
<p>（概要）</p> <p>理学部では、本学の学位授与の方針に従い、以下の能力を備えたと認められる者に学位を授与します。</p> <p>『知識・理解』 自然科学に関する基礎知識、専門性に対応できる基礎力を有している。</p> <p>『汎用的技能』 専門分野に精通し、異なる学問分野や異なる文化を理解できる総合的な判断力を有している。</p> <p>『態度・志向性』 自由な精神のもとに研究心を持ち続け、広い視野をもち人類の進むべき方向を絶えず模索し、協力し合って問題に対処できる能力を有している。</p>
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/science/educationpolicy.html ）
<p>（概要）</p> <p>理学部が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。</p> <p>『教育課程・学修成果』</p> <p>理学部は、自然を学び、種々の考えを理解できるような柔軟で創造力の豊かな人材の育成を教育目標としています。その教育目標達成のための教育課程として、第1、第3セメスターでは初年次教育科目を必修科目として設置し、新入生に対して自由な精神を持って学び、頭脳を柔軟にするよう指導を行い、学科の専門科目を学ぶための基礎知識の定着を図っています。第3セメスター以降では、数学・物理学・化学の関連性を学び理解し、自然科学に関する基礎知識と幅広い自然科学の知識を身に付けることを目的とした「e-科学A・B・C」、「科学論A・B・C」を学部共通必須科目として設置しています。並行して、第3、第4セメスターでは、学科の専門科目への導入科目として専門基礎科目を設置し、専門性に対応できる基礎力の定着を図っています。第5セメスター以降では、専門性の高い専門科目を多数設置し、多岐にわたって専門分野を学び、専門分野に精通すると同時に、異なる学問分野や異なる文化を理解できる総合的な判断力の定着を図っています。さらに、第5、第6セメスターでは、将来社会人になるために必要なキャリアについて学ぶことを目的としたキャリア教育科目を設置し、キャリアアップに必要な知識や方法やスキルについて指導を行</p>

い、社会人基礎力の定着を図っています。第6セメスター以降では、学科教育の集大成として「卒業研究」を設置し、より高度な専門分野をさらに深く学び、自由な精神のもとに研究心を持ち続け、広い視野をもち、協力し合って問題に対処できる能力の定着を図っています。

『学修成果の評価方法』

本学部のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD活動等とおして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/science/educationpolicy.html>）

（概要）

理学部の教育研究上の目的及び養成する人材像を理解し、これらを達成するために自ら学ぶ意欲をもった人を求めます。

『求める学生像』

理学部で定めている学位授与のために求められている能力を身に付けることが期待でき、基礎学力が十分にある人材。

『入学者に求める知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

（1）知識・技能

英語では、高校での英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

数学では、高校での数学の科目の履修を通して公式や計算方法を理解した上で、それらを応用できる能力を身に付けておくことが望ましい。

理科では、高校での理科（物理、化学、生物、地学）の科目の中から数科目を選択し、個々の項目の内容を理解していることが望ましい。

国語及び社会は、理系の学問を学ぶ上で必要な文化的な知識を幅広く理解していることが望ましい。

（2）思考力・判断力・表現力

文理融合の観点から、理系の知識・技能と文系の知識・技能を総合して応用できること、及び、それらの発信ができることが期待できること。

（3）主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

多様な価値観を理解し、友好的人間関係を築くことができること、物事に対して挑戦的に取り組むこと、及び、失敗や挫折を乗り越えて目標を実現しようとするのが期待できること。

<p>学部等名 情報理工学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/information_science_and_t/educationpolicy.html）</p>
<p>（概要）</p> <p>情報理工学部の教育研究上の目的は、建学の精神及びそれらを具現化した4つの力を踏まえ、情報に関する幅広い基礎知識と高度な専門知識と技術を備え、現代の情報社会が抱える多様な課題を正しく理解し、それらの課題に対する解決策を的確に導き出せる創造力及び実践力をもった人材を育成することです。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/information_science_and_t/educationpolicy.html）</p>
<p>（概要）</p> <p>情報理工学部では、本学の学位授与の方針に従い、以下の能力を備えたと認められる者に学位を授与します。</p> <p>『知識・理解』</p> <p>情報に関する幅広い基礎知識と専門知識をあわせ持ち、さらに現代社会における様々な課題、ニーズを柔軟に理解する能力を有している。</p> <p>『汎用的技能』</p> <p>情報分野の技術を応用し、時代の多様なニーズに対して情報工学的な解決策を見出すことができる。</p> <p>『態度・志向性』</p> <p>情報技術者のモラルと使命を理解して、情報分野の発展に寄与し、社会に貢献することができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/information_science_and_t/educationpolicy.html）</p>
<p>（概要）</p> <p>情報理工学部が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。</p> <p>『教育課程・学修成果』</p> <p>情報技術者は情報の技術のみを修得すればよいというものではありません。このため、本学部では、東海大学型リベラルアーツに加えて、情報技術者としての倫理観と幅広い知識および国際的に活躍できる能力を身につける教育を実施するため、「科学と倫理」、「知的財産権法」を設け、さらにいわゆる“技術英語”に相当する内容を盛り込みます。専門基礎科目については、基幹となる科目を段階的に学修できるように配置し、情報理工学分野の幅広い知識を身につけさせます。初年次における少人数のゼミナールや卒業研究などの実践的教育を通して、新しい情報技術を創成する能力やリーダーシップを育成します。また、ICT とグローバル社会に貢献できる人材を育成するため、「TOEIC」科目を配置し実用英語を身につけさせます。</p> <p>『学修成果の評価方法』</p> <p>本学部のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、修得単位数・GPA による分析評価、授業につ</p>

いてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD 活動等とおして教育の質向上のための PDCA サイクルにつなげています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/information_science_and_t/educationpolicy.html）

（概要）

情報理工学部在教育研究上の目的及び養成する人材像を理解し、これらを達成するために自ら学ぶ意欲をもった人を求めます。

『求める学生像』

情報理工学部で定めている学位授与のために求められている能力を身に付けることが期待でき、基礎学力が十分にある人材。

『入学者に求める知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

（1）知識・技能

英語では、高校での英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

数学では、高校での数学の科目の履修を通して公式や計算方法を理解した上で、それらを応用できる能力を身に付けておくことが望ましい。

理科では、高校での理科（物理、化学、生物、地学）の科目の中から数科目を選択し、個々の項目の内容を理解していることが望ましい。

国語及び社会は、理系の学問を学ぶ上で必要な文化的な知識を幅広く理解していることが望ましい。

（2）思考力・判断力・表現力

物事を論理的に志向する力、物事の良し悪しが判断できる力、自分の考えを相手に伝えられる表現力があることが望ましい。

（3）主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

他人とグループワークを行なう際などに、相手に自分の考えを伝え、また相手の考えを聞き、ともに1つの目標に協力しようとする態度があることが望ましい。

学部等名 工学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/engineering/educationpolicy.html ）
<p>（概要）</p> <p>工学部の教育研究上の目的は、建学の精神及びそれらを具現化した4つの力を踏まえ、工学の基本的知識と高度な専門知識をもって、現代文明が抱える諸課題に対する科学技術者としての使命と社会との関係を理解して、科学技術者として積極的、創造的に課題対応し、社会の発展に寄与する志をもった人材を養成することです。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/engineering/educationpolicy.html ）
<p>（概要）</p> <p>工学部では、本学の学位授与の方針に従い、以下の能力を備えたと認められる者に学位を授与します。</p> <p>『知識・理解』 良識ある社会人として必要な教養を持ち、社会の発展と科学技術の関わりを理解し、工学分野の幅広い基礎知識を持つと共に、専門分野の科学技術の知識と技術を持つこと。</p> <p>『汎用的技能』 自らの知識と技術を活用し、現代文明が抱える諸課題に対して科学技術者として挑戦する実践力を持つこと。</p> <p>『態度・志向性』 国際的な視野を持ち、科学技術を駆使した工学による持続可能な社会を実現するためのあり方を自ら考えると共に、継続的に新しい知識と技術を獲得する姿勢を持つこと。</p>
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/engineering/educationpolicy.html ）
<p>（概要）</p> <p>工学部が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。</p> <p>『教育課程・学修成果』 工学部では、リテラシー（主に講義科目による知識）とコンピテンシー（主に実験実習科目による技能）のバランスを配慮した教育課程を構成し、工学と社会のつながりに実在する課題の発見と、その解決に向けて主体的に取り組む人材を育成するカリキュラムとしています。</p> <p>1年次に学部共通基礎科目として数学、物理、化学の科目群を置き、さらに必修科目「入門ゼミナール」と連動して専門課程の基礎知識が習得できるよう学習過程を構築しています。特に、「入門ゼミナール」は後続の全学必修科目「現代文明論」と連携し、東海大学が育成する4つの力（自ら考える力、集い力、挑み力、成し遂げ力）と各学科の専門課程の学習との関わりを授けながら、大学での学習を能動化させる学生のキャリア導入科目としています。</p>

2年次ではIoT(Internet of Things)の学習を例とした「ものづくり1」と「ものづくり2」の選択実習科目を置き、各専門課程に関わる情報技術の展開を思考する機会を設け、工業品等に対して付加価値を生み出すアイデアと意識の形成を図っています。

さらに、各年次には学科課程の特色に合わせた体系的な学習を通じ専門領域の実課題に対して技術者として実践する考え方、探求力と実行力の向上を目指した学科専門科目を置いています。特に、4年次には全学科の必修科目「卒業研究」を置き、専門教育課程の集大成として工学と社会とのつながりに関わる実課題の発見とその解決に向けた学習を通して、総合的な学修の成果が評価されます。

また、大学院進学希望者に向けて4年次に選択科目「国際インターンシップ」を置き、海外大学の研究室滞在を通じて、専門分野におけるグローバルな課題の発見とその解決に向けた体験的な学習による語学力と自己啓発力の伸長を図っています。

『学修成果の評価方法』

本学部のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD活動等とおして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/engineering/educationpolicy.html>）

（概要）

工学部の教育研究上の目的及び養成する人材像を理解し、これらを達成するために自ら学ぶ意欲をもった人を求めます。

『求める学生像』

工学部で定めている学位授与のために求められている能力を身に付けることが期待でき、基礎学力が十分にある人材。

『入学者に求める知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

（1）知識・技能

英語では、高校での英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくこと。

数学では、高校での数学の科目の履修を通して公式や計算方法を理解した上で、それらを応用できる能力を身につけておくこと。

理科では、高校での理科（物理、化学、生物）の中から数科目を選択し、個々の項目の内容を理解していること。

国語及び社会は、理系の学問を学ぶ上で必要な文化的な知識を幅広く理解していること。

（2）思考力・判断力・表現力

文理融合の観点から、理系と文系それぞれの知識や技能を総合して応用できること、及び、それらを表現できること。

（3）主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

多様な価値観を理解し、友好的人間関係を築くことができること、物事に対して挑戦的に取り組むこと、および、失敗や挫折を乗り越えて目標を実現しようとする事。

学部等名 観光学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/tourism/educationpolicy.html ）
<p>（概要）</p> <p>観光学部観光学科の教育研究上の目的は、建学の精神及びそれらを具現化した4つの力を踏まえ、文化・社会・自然の多様性ならびに観光の諸現象に関する知識と理解、問題発見解決力・創造力、日本語や英語等多言語でのプレゼンテーション・コミュニケーション力をはじめとする汎用的な能力と技能、協調性を保ちつつ独自性を発揮できる自己管理力等、学士の学位をもって社会で生きる基礎的な力を有し、観光・サービス産業やそれらの研究分野の発展に貢献することができる独創的人材を養成することです。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/tourism/educationpolicy.html ）
<p>（概要）</p> <p>観光学部観光学科では、本学の学位授与の方針に従い、以下の能力を備えたと認められる者に学位を授与します。</p> <p>『知識・理解』 文化・社会・自然の多様性ならびに観光に関する体系的かつ広範な知識を有し、それらを実践的に応用できること。</p> <p>『汎用的技能』 コミュニケーション・スキル、情報リテラシー、論理的思考力などの基本的技能を身につけ、観光・サービス産業の場でさまざまな問題の解決に役立てることができること。</p> <p>『態度・志向性』 現代のグローバルな状況に対応できるよう、自己管理力、協調性、社会的責任感をもち、観光・サービス産業の発展に寄与することができること。</p>
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/tourism/educationpolicy.html ）
<p>（概要）</p> <p>観光学部観光学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。</p> <p>『教育課程・学修成果』</p> <p>本学部の教育の基礎となる、文化・社会・自然の多様性ならびに観光の諸現象に関する知識と理解を育成するために、観光学とは何かを総合的に学ぶ「観光学概論」を初年次の必修科目とします。また4つの専門分野（観光文化、サービス・マネジメント、レジャー・レクリエーション、地域デザイン）の基礎を学ぶ入門科目、観光資源の基礎を学ぶ「自然観光資源と地球環境」、「文化観光資源と世界史」などの選択科目を配置することで、観光現象を狭義の旅行・宿泊のみならず、世界中の文化、歴史、社会、経済、経営、法律などの人文社会的側面、および地球の生態系のもとでの自然の諸現象との関わりにおいて理解する文理複眼的な幅広い視野の育成を図ります。</p>

初年次教育としては、1年次に大学での学修の基礎を学ぶ「ファーストイヤーセミナー」1と2、2年次に観光学調査の基礎を学ぶ「プレセミナー」1と2を必修科目とします。また、グローバル社会に対応し、「英語（観光学）」1と2、及び「第2外国語」1と2という必修科目を配置し、語学科目の積極的な履修を促すことで、国際的視野のもとで観光・ツーリズムを推進できる語学力の育成を図ります。

観光学部観光学科では、基礎から専門へと段階的な学修をふまえ、主に2年次以上の学生を対象に専門性の高い科目を開講します。具体的には、文化観光資源の活用や観光行動を学ぶ「観光文化」、観光産業の経営を学ぶ「サービス・マネジメント」、レジャーの諸側面とその提供システムを学ぶ「レジャー・レクリエーション」、まちづくりや地域振興を学ぶ「地域デザイン」という4つの科目群（専門分野）に分かれて、多彩な科目を開講します。

学生は、それぞれの科目群の授業科目を本人の希望に応じて自由に履修し専門性を磨くことができますが、単一の科目群だけではなく、複数の科目群にわたって総合的な学修を行うことが要請されます。

専門教育課程の中には、4つの科目群（専門分野）に入らない展開科目も開講します。このうち「観光学研修」「観光学実習」「フィールドワーク」は、教室内の座学に加えて、実際の観光・ツーリズムの現場で学修をし、実践的に調査の技法を学び、経験に基づく知見を育成することを目的として、毎年国内外にわたって複数のテーマで実施します。また、「キャリア開発」のように企業や団体などでインターンシップを実践し、就職を含むキャリア形成へのプロセスを主体的かつ能動的に促す科目も配置します。

以上をふまえ、観光学部観光学科では、専門教育課程の集大成として卒業論文の作成を課します。卒業論文制作のための学修は、5セメスター（3年次前半）から8セメスター（4年次後半）まで毎セメスター、4学期間にわたって「セミナー」1～4の4つの必修科目で行われ、最終的かつ総合的に学習の成果を評価します。

このように観光学部観光学科では、観光学全般に及ぶ多様な科目を設置し、総合的な学修ができると共に、ディプロマ・ポリシーで述べた学士として相応しい力が形成されるように配慮します。

『学修成果の評価方法』

本学部のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD活動等とおして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/tourism/educationpolicy.html>）

(概要)

観光学部観光学科の教育研究上の目的及び養成する人材像を理解し、これらを達成するために自ら学ぶ意欲をもった人を求めます。

『求める学生像』

観光学部観光学科で定めている学位授与のために求められている能力を身に付けることが期待でき、基礎学力が十分にある人材を求めます。

『入学者に求める知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

英語については、高校での英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけていること。

国語については、高校での国語の履修を通して日本語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけていること。

社会については、高校での社会（世界史、日本史、地理、政治・経済、倫理、現代社会）の科目の中から複数の教科を選択し、個々の項目の内容を理解していること。

数学及び理科は、文系の学問を学ぶ上で必要な自然科学的な知識を幅広く理解していることが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

文理融合の観点から、文系の知識・技能と理系の知識・技能とを総合して応用できること、およびそれらの発信ができることが期待できること。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

多様な価値観を理解し、友好的人間関係を築くことができること、物事に対して挑戦的に取り組むこと、および失敗や挫折を乗り越えて目標を実現しようとするのが期待できること。

学部等名 情報通信学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/information_and_telecommu/educationpolicy.html ）
<p>（概要）</p> <p>情報通信学部の教育研究上の目的は、建学の精神及びそれらを具現化した4つの力を踏まえ、知育に偏らず心身ともに健康で高度情報化社会の発展と創造に寄与できる人材、すなわち、情報通信に関する基礎知識と基礎技術を身に付け、さらに、それらを社会で十分に応用できる柔軟な思考能力を備え、幅広い知識、国際性豊かな視野、英語コミュニケーション能力を有すると共に、情報通信技術者としての高度な使命感、倫理観をもった人材を養成することです。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/information_and_telecommu/educationpolicy.html ）
<p>（概要）</p> <p>情報通信学部では、本学の学位授与の方針に従い、以下の能力を備えたと認められる者に学位を授与します。</p> <p>『知識・理解』 高度情報化社会が要求する多様な先端技術に柔軟に対応できる基礎学力。</p> <p>『汎用的技能』 国際社会において英語でコミュニケーションを取り、様々な問題を解決できる実践的専門能力。</p> <p>『態度・志向性』 高度情報化社会のあり方を総合的に把握し、自らの社会的使命と責任を自覚して行動できる能力。</p>
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/information_and_telecommu/educationpolicy.html ）
<p>（概要）</p> <p>情報通信学部が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。</p> <p>『教育課程・学修成果』 本学部では、東海大学の教育方針、教育目標の下で、卒業生が高度情報化社会の発展に貢献できるように、「情報の基礎知識・基礎技術を身につける」、「その基礎知識・基礎技術を社会で十分に応用できる柔軟性を身につける」、「グローバル社会において活躍できるように英語コミュニケーション能力を身につける」、「幅広い視野と使命感、倫理観を身につける」ことを目的としてカリキュラムを設定しています。</p> <p>初年次教育科目として学部共通で「基礎数学」、「基礎物理 A、B」、「情報通信学概論」を開講し、各学科においては「入門ゼミナール」を必修科目として開講します。さらに、2年次以降の履修を推奨として、高いレベルでの学びや研究につながる数学的思考を養成する科目として「応用数学 A、B、C」を学部共通科目として開講します。これらにより、情報通信技術の進歩に対応できる基礎学力とそれを社会で十分に応用できる柔軟性を養成します。</p>

また、3年次に「グローバルビジネス英語」を必修の学部共通科目として能力別に開講します。これにより、グローバル社会において英語でコミュニケーションを取り、様々な問題を解決できる実践的専門能力を養います。

4年次には専門教育課程の集大成として「卒業研究1, 2」が全学科必修科目として開講されています。また、「知的財産」が学部共通科目として開講されています。これらの科目により、高度情報化社会の在り方を総合的に把握し、自らの社会的使命と責任を自覚して行動できる能力を養成します。

さらに、キャリア教育の一貫として「インターンシップ」が学部共通科目として開講されています。

『学修成果の評価方法』

本学部のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD活動等とおして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/information_and_telecommu/educationpolicy.html）

（概要）

情報通信学部の教育研究上の目的及び養成する人材像を理解し、これらを達成するために自ら学ぶ意欲をもった人を求めます。

『求める学生像』

情報通信学部で定めている学位授与のために求められている能力を身に付けることが期待でき、基礎学力が十分にある人材。

『入学者に求める知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

（1）知識・技能

英語では、高校での英語の科目の履修を通して基礎的な英語の文章理解力、文章表現力、会話能力を身につけておくことが望ましい。

数学では、高校での数学の科目の履修を通して公式や計算方法を理解した上で、それらを利用できる能力を身につけておくことが望ましい。

理科では、高校での理科（物理、化学、生物）の科目の中から選択した科目について、その各項目の内容を理解していることが望ましい。

（2）思考力・判断力・表現力

文理融合の観点から、理系の知識・技能と文系の知識・技能を総合して応用できること、および、それらの発信ができることが期待できること。

（3）主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

多様な価値観を理解し、友好的人間関係を築くことができること、物事に対して挑戦的に取り組むこと、および、失敗や挫折を乗り越えて目標を実現しようとするのが期待できること。

学部等名 海洋学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/marine_science_and techno/educationpolicy.html ）
<p>（概要）</p> <p>海洋学部の教育研究上の目的は、建学の精神及びそれらを具現化した4つの力を踏まえ、海洋に関わる人文社会学、理工学などの幅広い基礎知識と、高度な専門知識と技術をもって、地球と人類が抱える多様な諸問題に対して、海洋を通してその全体像を正しく理解し、さらに、これらの問題に対する対処・解決の方策を導き出せる創造力及び実践力をもった人材を養成することです。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/marine_science_and techno/educationpolicy.html ）
<p>（概要）</p> <p>海洋学部では、本学の学位授与の方針に従い、以下の能力を備えたと認められる者に学位を授与します。</p> <p>『知識・理解』</p> <p>海の自然についての科学的な基礎知識と、海と人との関わりについての人文社会的基礎知識をあわせ持ち、さらに専門分野における応用的知識を有している。</p> <p>『汎用的技能』</p> <p>専門分野における最新の知識・技術に精通することを通して、具体的な問題に対する実践的な対処・解決の方策を導き出せる。</p> <p>『態度・志向性』</p> <p>文理複眼的な幅広い視野で社会を理解し、自らの意見をもって積極的に社会での活躍を目指す。</p>
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/marine_science_and techno/educationpolicy.html ）
<p>（概要）</p> <p>海洋学部が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。</p> <p>『教育課程・学修成果』</p> <p>本学部の教育の基礎となる、海の自然についての科学的な基礎知識と、海と人との関わりについての人文社会的基礎知識を修得し、文理複眼的視野を育成するために、学部共通科目に「現代海洋論」を、海の科学を体験的に学修するために、「海洋実習1・2」を必修科目として開講しています。初年次教育科目としては、学部共通で「自然を観る眼」、「数を観る眼」等を開講し、基礎学力養成を図るとともに、各学科においては「入門ゼミナール」を必修科目として開講し、学科の教育課程や学術研究に対する理解、キャリア意識の形成等を図っています。</p> <p>また、各学科における基礎的及び最新の専門的知識や技術を能動的体験的に修得するために、3年次に「海洋実習3」が全学科必修科目として開講されています。こうした学習を通して、具体的な問題に対する実践的な対処・解決の方法を導きだせる力を養っていきます。さらに、4年次には、</p>

専門教育課程の集大成として「総合研究・卒業研究」等が全学科必修科目として開講されており、自らの意見をもって積極的に社会で活躍することができることを目指して、最終的かつ総合的に学修の成果が評価されます。

さらに学部独自のプログラムとして、海洋環境問題に対する実践的な対処・解決の方策を導き出す力を強化養成するために、「海洋環境総合演習」を必修とした科目群を設定し、所定単位取得及び最終試験に合格した者に「海洋環境士」の資格が認定（大学認定）されます。

『学修成果の評価方法』

本学部のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD活動等とおして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/marine_science_and_techno/educationpolicy.html）

（概要）

海洋学部の教育目標を理解し、この目標を達成するために自ら学ぶ意欲を持った人を求めます。

『求める学生像』

海洋学部で定めている学位授与のために求められている能力を、身に付けることができることが期待でき、基礎学力が十分にある人材。

『入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

（1）知識・技能

【海洋文明学科・環境社会学科】

英語では、高校での英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

国語では、高校での国語の履修を通して日本語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

社会では、高校での社会（世界史、日本史、地理、政治・経済、倫理、現代社会）の科目の中から数科目を選択し、個々の項目の内容を理解していることが望ましい。

数学及び理科は、文系の学問を学ぶ上で必要な自然科学的な知識を幅広く理解していることが望ましい。

【海洋地球科学科・水産学科・海洋生物学科・航海工学科】

英語では、高校での英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

数学では、高校での数学の科目の履修を通して公式や計算方法を理解した上で、それらを応用できる能力を身につけておくことが望ましい。

理科では、高校での理科（物理、化学、生物、地学）の科目の中から数科目を選択し、個々の項目の内容を理解していることが望ましい。

国語及び社会は、理系の学問を学ぶ上で必要な文化的な知識を幅広く理解していることが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

文理融合の観点から、理系の知識・技能と文系の知識・技能を総合して応用できること、及び、それらの発信ができることが、期待できること。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

多様な価値観を理解し、友好的人間関係を築くことができること、物事に対して挑戦的に取り組むこと、及び、失敗や挫折を乗り越えて目標を実現しようとするのが、期待できること。

学部等名 医学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/medicine/educationpolicy.html ）
<p>（概要）</p> <p>医学部の教育研究上の目的は、建学の精神及びそれらを具現化した4つの力を踏まえ、“科学とヒューマニズムの融和”の精神のもとで、保健・医療の幅広い知識と確かな技能とともに豊かな人間性を有し、創造的な「生命科学研究」を実践できる人材を養成することです。</p> <p>実践的な学修を通じて、医療の現場で求められる知識や技術とともに、コミュニケーション能力、論理的思考力、国際的視野などを兼ね備えたプロフェSSIONALを育て、社会に還元します。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/medicine/educationpolicy.html ）
<p>（概要）</p> <p>医学部では、本学の学位授与の方針に従い、以下の能力を備えたと認められる者に学位を授与します。</p> <p>『知識・理解』</p> <p>人間、社会・環境に関する教養を基盤とし、健康や生命科学に関する知識を幅広く有し、積極的に新たな知識を得て理解できる。</p> <p>『汎用的技能』</p> <p>保健・医療の専門的知識と臨床技能を備え、ヒューマンケアの実施に求められる様々なスキルを体得して、時代に即した専門的対応策を見出すことができる。</p> <p>『態度・志向性』</p> <p>保健・医療のプロフェSSIONALとしてのモラル・使命・倫理観・人権擁護を基盤とした態度を身につけ、国内外で貢献する志を有している。</p>
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/medicine/educationpolicy.html ）
<p>（概要）</p> <p>医学部が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。</p> <p>『教育課程・学修成果』</p> <p>医学部のミッションは、“科学とヒューマニズムの融和”の精神のもとで、幅広い知識と確かな技能とともに、温かい人間性と創造性を併せ持つ保健・医療のプロフェSSIONALを育て、社会に還元することです。</p> <p>このため、各学科においては、専門性の高い知識を低学年から系統立てて学べるように科目を配置し、臨床現場で活用できるよう実践的な演習・実習を行います。</p> <p>そのうえで、人に対する尊厳を忘れない良医と、人権擁護を基盤としたヒューマンケアが実践できる保健・医療専門職の育成を目標とし、知識・技能のみならず、豊かな人間性やコミュニケーション力、論理的な思考力を養う科目を配置しています。これらの知識や経験をより実践的に応用する</p>

場として、医学部の2学科合同で多職種連携演習プログラムを高学年において展開します。

また、国際的視野などを養うことにも力を入れており、各学科では独自の海外研修プログラムを設置していますが、2学科合同の海外研修プログラムも展開します。

さらに、各科目の達成すべき目標をカリキュラム・マップで、科目の系統立てや関連はグレードナンバーや履修モデルなどを明示して、教育の全容が理解しやすいようにしています。

『学修成果の評価方法』

本学部のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD活動等とおして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/medicine/educationpolicy.html>）

（概要）

医学部の教育研究上の目的及び養成する人材像を理解し、これらを達成するために自ら学ぶ意欲をもった人を求めます。

『求める学生像』

医学部で定めている学位授与のために求められている能力を身に付けることが期待でき、基礎学力が十分にあり、かつ、明日の保健・医療を担う強い使命感をもった人材。

＜医学科のアドミッション・ポリシー＞

医学部医学科の教育研究上の目的及び養成する人材像を理解し、これらを達成するために自ら学ぶ意欲を持った人を求めます。

『求める学生像』

医学科で定めている学位授与のために求められている能力を身に付けることができることが期待でき、基礎学力が十分にある人材。

『医学科の入学者に求める知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

（1）知識・技能

英語では、高校での英語の科目を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

数学では、高校での数学の科目の履修を通して公式や計算方法を理解した上で、それらを応用できる能力を身につけておくことが望ましい。

理科では、高校での理科（物理、化学、生物）の科目の中から数科目を選択し、個々の項目の内容を理解していることが望ましい。

（2）思考力・判断力・表現力

他者の意見を傾聴でき、自身の知識・体験を通じて共感でき、相手を尊重しながら自身の考えを発信できる能力を身につけていることが望ましい。

（3）主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

周囲と協調しながら、目標に向かって継続した努力や挑戦する姿勢を持つことが望ましい。

<看護学科のアドミッション・ポリシー>

医学部看護学科の教育研究上の目的及び養成する人材像を理解し、これらを達成するために自ら学ぶ意欲を持った人を求めます。

『求める学生像』

看護学科で定めている学位授与のために求められている能力を身に付けることができることが期待でき、基礎学力が十分にある人材。

『看護学科の入学者に求める知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

国語、数学、理科、社会の科目の知識を幅広く理解していることが望まれる。

国語や英語の履修を通して文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。また、数学では、公式や計算方法を理解した上で、それらを応用できる能力を身につけておくことが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

既に学び得た知識や技能を通して、社会に起こる様々なことに興味を持ち、考えを深め、自分の考えを人に伝える力を培う姿勢があることが望ましい。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

多くの学習を通して表現力を身につけ、多様な人々と協調し、主体的に課題に取り組む態度を身につけておくことが望ましい。

学部等名 健康科学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/health_science/educationpolicy.html ）
<p>（概要）</p> <p>教育目標及び養成する人材像</p> <p>健康科学部では、大学・学部の教育理念に沿って、次のように教育目標を定めています。「健康科学」が対象とするのは、「人間」とくに「人の心」です。温かい人間性と謙虚さ、幅広い教養をもとにしたコミュニケーション力を育成し、保健・医療・福祉の専門職として、人権擁護を基盤としたヒューマンケアが実践できる能力の育成をします。多職種間の連携をはかり、チームの一員として活躍できる力をつけ、自ら学び、国内外で活躍し得る人材の育成を目指します。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/health_science/educationpolicy.html ）
<p>（概要）</p> <p>健康科学学部では、本学・学部の学位授与の方針に従い、所定の課程を修め、以下の能力を備えたと認められる者に学位を授与します。</p> <p>学位授与に求められる能力</p> <p>（知識・理解）</p> <p>人間、健康、社会・環境に関する知識とそれらの関連についての理解</p> <p>（汎用的技能）</p> <p>保健・医療・福祉の専門的知識とヒューマンケアの実施に求められる様々なスキルを体得</p> <p>（態度・志向性）</p> <p>温かい人間性、人権擁護を基盤とした態度を身につけ、自ら学び、国内外で貢献しようとする力</p>
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/health_science/educationpolicy.html ）
<p>（概要）</p> <p>教育理念</p> <p>健康科学部の教育理念は、ヒューマニズムと科学の融和、自然と人間の調和をめざし、人道主義の理念のもとに、健康で生きがいに満ちた福祉社会の実現に向けて、人々の多様な健康ニーズに対処する、保健・医療・福祉専門職を育成します。実践的な学習を通じて保健・医療・福祉の専門職としての知識・技術の修得と、幅広い教養を身につけ、人権擁護を基盤としたヒューマンケアを実施できるよう教育します。</p> <p>その教育理念に基づき、次のように教育目標を設定します。</p> <p>教育目標</p> <p>「健康科学」が対象とするのは、「人間」とくに「人の心」です。温かい人間性と謙虚さ、幅広い教養をもとにしたコミュニケーション力を育成し、保健・医療・福祉の専門職として、人権擁護を基盤としたヒューマンケアが実践できる能力の育成をします。多職種間の連携をはかり、チームの一</p>

員として活躍できる力をつけ、自ら学び、国内外で活躍し得る人材の育成を目指します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/health_science/educationpolicy.html）

（概要）

健康科学部では次のように教育目標を定めています。

「健康科学」が対象とするのは、「人間」とくに「人の心」です。温かい人間性と謙虚さ、幅広い教養をもとにしたコミュニケーション力を育成し、保健・医療・福祉の専門職として、人権擁護を基盤としたヒューマンケアが実践できる能力の育成をします。多職種間の連携をはかり、チームの一員として活躍できる力をつけ、自ら学び、国内外で活躍し得る人材の育成を目指します。

この教育目標を理解し、その目標を達成するために自ら学ぶ意欲を持った人を求めます。

学部等名 経営学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/business_administration/educationpolicy.html ）
<p>（概要）</p> <p>経営学部の教育研究上の目的は、建学の精神及びそれらを具現化した4つの力を踏まえ、経営や観光に関わる社会科学、人文科学などの幅広い基礎理論と、実践的な応用の両面を学ぶことで、社会面、環境面に配慮しつつ、グローバル市場化した社会と地域社会が抱える多様な諸問題に対処し、産業の活性化に寄与できる総合的力をもった人材を養成することです。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/business_administration/educationpolicy.html ）
<p>（概要）</p> <p>経営学部では、本学の学位授与の方針に従い、以下の能力を備えたと認められる者に学位を授与します。</p> <p>『知識・理解』</p> <p>経営学や観光学についてのグローバルな観点からの人文社会的基礎知識と地域や時代の変化がもたらす影響に対応していくべき基礎能力を有している。</p> <p>『汎用的技能』</p> <p>専門分野における最新の知識を応用し、具体的に問題の所在を明らかにした上で、何をするかという実践的問題解決能力を有している。</p> <p>『態度・志向性』</p> <p>グローバル市場経済社会における国内外の動きに敏感に反応し、多角的視点を持てる気づき力を持ちながら、積極的に産業社会での活躍を目指す。</p>
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/business_administration/educationpolicy.html ）
<p>（概要）</p> <p>経営学部が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。</p> <p>『教育課程・学修成果』</p> <p>情報処理、統計学、会計、観光ビジネス概論、観光起業論などの経営学や観光学の基礎ツールを低年次に学んだ後、高年次ではこれらのツールを活用し、経営戦略論、経営組織論、観光マーケティング論や観光経済論等の専門科目を学ぶといった順序立てた学修をすることによって、新たな切り口でビジネス（特に、スポーツ・アグリ・観光ビジネス）を展開する能力を涵養します。</p> <p>具体的には、学部共通科目として、経営学や観光学についてのグローバルな観点からの人文社会的基礎知識を修得し、地域や時代の変化がもたらす影響に対応していくべき基礎能力を育成するために、初年次に、経営学部における学びの基礎として経営学、経済学を深く学修します。また、並行して、アジアに近い九州という立地を生かし、アジアの成長を取り込むという必要性から、様々な視点で、「アジアと九州の産業」を徹底的に講じます。論理的思考法、レポートの作成の仕方、プレゼンテーションの仕方</p>

については、初年次教育の「フレッシュマンゼミナール」で、身につけることができるよう、集中的に指導します。

企業経営分野、その応用分野としてのスポーツビジネス分野、アグリビジネス分野、観光ビジネス分野、これらのそれぞれの履修モデルプランを提示することにより、系統的に学べるようにしています。すべての科目に100から400までのグレードナンバーをつけ、それぞれの分野の基礎的科目から卒業研究などの難易度の高い科目まで段階的に学べるようにしています。

単なるスポーツ、農業、観光のスペシャリストではなく、企業を起こす、企業を運営する、いずれも企業経営の視点で、それぞれのビジネスへ貢献できる、そのような科目（例えば、地域企業家論など）の配置を行っています。こうした学習を通して、産業社会のなかで、何をするかという実践的問題解決能力を養っていきます。

学科目としては、学部共通科目以外に、企業経営科目、スポーツビジネス科目、アグリビジネス科目、観光ビジネス科目、ゼミナール科目、グローバル科目、旅行業務科目、国際教養・外国語科目、観光研修科目から構成されています。

それぞれの科目にシラバス等で授業で育成する力・スキルが明示されており、どのような力・スキルが身につくかを学生は理解することができます。各学科における基礎的知識及び最新の専門的知識を能動的、主体的に修得するために、3年次にゼミナールを必修科目として開講しています。さらに、4年次に専門教育課程の集大成として、卒業研究を各学科の必修科目として開講しており、グローバル市場経済社会における功罪を理解しながら、積極的に産業社会で活躍できる人材の育成を目指して、最終的、総合的な学修の成果を評価します。

『学修成果の評価方法』

本学部のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD活動等とおして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/business_administration/educationpolicy.html）

（概要）

経営学部の教育研究上の目的及び養成する人材像を理解し、これらを達成するために自ら学ぶ意欲をもった人を求めます。

『求める学生像』

経営学部で定めている学位授与のために求められている能力を身に付けることが期待でき、基礎学力が十分にある人材。

『入学者に求める知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

（1）知識・技能

英語では、高校での英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身に付けておくことが望ましい。

国語では、高校での国語の履修を通して日本語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身に付けておくことが望ましい。特に漢字の読み書きの練習を十分にしておくことが望ましい。

社会では、高校での社会（世界史、日本史、地理、政治・経済、倫理、現代社会）の科目の中から数科目を選択し、個々の項目の内容を理解していることが望ましい。さらに、書籍、テレビやネットのメディア、新聞等を通して、国内外の政治・経済、国際関係、文化の違いについて常に考える習慣を身につけておくことが望ましい。

数学及び理科は、文系の学問を学ぶ上で必要な自然科学的な知識を幅広く理解していることが望ましい。特に、地球環境問題への関心をもつことが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

文理融合の観点から、理系の知識・技能と文系の知識・技能を総合して応用できること、及び、それらを表現できることが期待できること。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

寛容性をもって友好的な人間関係を築くことができること、バランス感覚をもちながら、物事に対して挑戦的に取り組むこと、及び、失敗や挫折を乗り越えて、人類の幸福の実現に資するような目標を実現することが期待できること。

<p>学部等名 基盤工学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/industrial_and_welfare_engineering/educationpolicy.html）</p>
<p>（概要）</p> <p>基盤工学部の教育研究上の目的は、建学の精神及びそれらを具現化した4つの力を踏まえ、ネットワーク・セキュリティ、情報メディア、知能ロボット、地球環境・植物生産、臨床工学及び医療情報の分野であり、次世代で重視される安全・安心を確立するネットワーク・セキュリティ・ロボット・食品・医療・福祉の分野に欠かせない基盤工学の技術を理解し、幅広い応用分野の中で、その分野の発展に寄与し、人類及び社会の発展に貢献する実践力をもった人材を育成することです。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/industrial_and_welfare_engineering/educationpolicy.html）</p>
<p>（概要）</p> <p>基盤工学部では、本学の学位授与の方針に従い、以下の能力を備えた者と認められる者に学位を授与します。</p> <p>『知識・理解』</p> <p>電子・情報および医療分野において、幅広い基礎知識と視野を持ち、急速に発展する情報化に対応することができる応用技術を理解する能力を有している。</p> <p>『汎用的技能』</p> <p>専門分野の技術動向に注目し、新しい技術に精通しながら未解決の問題に対しても新技術を適用する能力を有している。</p> <p>『態度・志向性』</p> <p>安全・安心な社会の実現を目指し、社会的実践力を持ち社会に貢献しようとする力がある。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/industrial_and_welfare_engineering/educationpolicy.html）</p>
<p>（概要）</p> <p>基盤工学部が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。</p> <p>『教育課程・学修成果』</p> <p>基盤工学部の専門分野は、ネットワーク・セキュリティ、情報メディア、知能ロボット、地球環境・植物生産、臨床工学及び医療情報の分野であり、次世代で重視される安全・安心を確立するネットワーク・セキュリティ・ロボット・食品・医療・福祉の分野に欠かせない基盤工学の技術を理解し、幅広い応用分野の中で、その分野の発展に寄与し、人類及び社会の発展に貢献する実践力を持った技術者を育成することを教育の目標としています。</p> <p>その実現のため、第1 Semesterに学部共通科目として「電気・電子工学概論」を必修で置き、電気・電子工学をベースとする両学科の基礎知識が習得できるよう学習過程を構築しています。</p>

第3セメスターには、「放射線工学」を学部共通選択科目として設置しています。この科目では、我々の周りに存在する放射線に関する正しい知識を得てもらうことを目的としています。特にエックス線に関する内容を充実させています。第6セメスターでは「社会人のための医学・医療」を学部共通選択科目として設置しています。この科目では社会人として知っておいて欲しい医学・医療の知識を学ぶことを目的としています。最近注目されている電子カルテの開発・運用に従事する医療情報技師の認定試験に必要な内容も多く含んでいます。

更に、4年次には、専門教育課程の集大成として、「卒業研究1、2」がそれぞれの学科の必修科目として開講されており、最終的かつ総合的に学修の成果が評価されます。

『学修成果の評価方法』

本学部のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD活動等とおして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/industrial_and_welfare_engineering/educationpolicy.html）

（概要）

基盤工学部の教育研究上の目的及び養成する人材像を理解し、これらを達成するために自ら学ぶ意欲をもった人を求めます。

『求める学生像』

基盤工学部で定めている学位授与のために求められている能力を身に付けることが期待でき、基礎学力が十分にある人材。

『入学者に求める知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

（1）知識・技能

英語では、高校での英語の科目履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくこと。

数学では、高校での数学の科目履修を通して公式や計算方法を理解した上で、それらを応用できる能力を身につけておくこと。

理科では、高校での理科（物理、化学、生物）の中から数科目を選択し、個々の項目の内容を理解していること。

国語及び社会では、理系の学問を学ぶ上で必要な文化的な知識を幅広く理解していることが望ましい。

（2）思考力・判断力・表現力

文理融合の観点から、理系と文系それぞれの知識や技能を統合して応用できること、及びそれらを表現できること。

（3）主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

多様な価値観を理解し、友好的人間関係を築くことができること、物事に対して挑戦的に取り込むこと、及び、失敗や挫折を乗り越えて目標を実現しようとする事。

学部等名 農学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/agriculture/educationpolicy.html ）
<p>（概要）</p> <p>農学部の教育研究上の目的は、建学の精神及びそれらを具現化した4つの力を踏まえ、食料生産および利用の理論ばかりでなく、その実学を重視し、食と生命の関係をよく理解した心豊かな人物で、グローバルな視点から環境と調和した「食の重要性」と「生命の尊さ」を後世に伝承出来る力をもった人材を養成することです。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/agriculture/educationpolicy.html ）
<p>（概要）</p> <p>農学部では、本学の学位授与の方針に従い、以下の能力を備えたと認められる者に学位を授与します。</p> <p>『知識・理解』</p> <p>食料生産、環境、生命についての科学的な基礎知識と、自然と人との関わりについての人文社会的基礎知識をあわせ持ち、さらに専門分野における応用的知識を有している。</p> <p>『汎用的技能』</p> <p>地域に根付く伝統的な知恵に加え、グローバルな最新の知識・技術を応用し、具体的な問題に対する実践的な対処・解決の方策を導き出せる。</p> <p>『態度・志向性』</p> <p>文理融合的な柔軟で幅広い視野で社会を理解し、自らの意見をもって、特に食料生産、環境、生命などの分野で責任ある社会貢献ができる。</p>
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/agriculture/educationpolicy.html ）
<p>（概要）</p> <p>農学部が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。</p> <p>『教育課程・学修成果』</p> <p>本学部の教育の基礎となる、食料生産、環境、生命についての科学的な基礎知識と、自然と人との関わりについての人文社会的基礎知識を修得し、文理融合的な農学的視野を育成するために、「農学概論」を必修科目として開講しています。</p> <p>初年次教育の要となる科目として、「フレッシュマンセミナー」を開講し、育課程や学術研究に対する理解、キャリア意識の形成等を図ると同時に、「自ら考える力」と「集い力」の養成に重点を置き少人数によるアクティブラーニングを取り入れた教育を行います。また、実験科学の基礎を体験的修得するために「生物学実験」及び「化学実験」を必修科目として開講しています。加えて、現代社会において欠かせない情報に関するリテラシーを養成するために「情報リテラシー」も必修科目として開講しています。</p>

専門性を活かしたキャリアに関する理解と能動的に自らの将来を考える能力を養うために、「将来設計と就職1・2」を初年次と2年次にそれぞれ開講しています。

また、2年次以降を対象として「総合農学実習」を開講しています。この科目では、学外のフィールドや機関などを利用して、視野の拡大とこれまで修得した農学的基礎知識や技術を応用する力を実践的に養成することを意図しています。

さらに4年次には、自らの意見をもって積極的に社会で活躍する能力の養成を目指し、専門教育課程の集大成として、「卒業研究1・2」が全学科必修科目として開講されており、これまでの学びで培った4つの力を総括し、最終的かつ総合的に学修の成果が評価されます。

『学修成果の評価方法』

本学部のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD活動等とおして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/agriculture/educationpolicy.html>）

（概要）

農学部の教育研究上の目的及び養成する人材像を理解し、これらを達成するために自ら学ぶ意欲をもった人を求めます。

『求める学生像』

農学部で定めている学位授与のために求められている能力を身に付けることが期待でき、基礎学力が十分にある人材。

『入学者に求める知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

（1）知識・技能

英語では、高校での英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

数学では、高校での数学の科目の履修を通して公式や計算方法を理解した上で、それらを応用できる能力を身に付けておくことが望ましい。

理科では、高校での理科（物理、化学、生物、地学）の科目の中から数科目を選択し、個々の項目の内容を理解していることが望ましい。

国語及び社会は、理系の学問を学ぶ上で必要な文化的な知識を幅広く理解していることが望ましい。

（2）思考力・判断力・表現力

文理融合の観点から、文系の知識・技能と理系の知識・技能を総合して応用できること、及び、それらを発信できることが求められます。

（3）主体性を持って多様な人々と協同して学ぶ態度

多様な価値観を理解する姿勢、良好な人間関係を築いていく姿勢、物事に対して挑戦的に取り組む姿勢、及び、失敗や挫折を乗り越えて目標を達成しようとする姿勢を持ち、自ら学ぶ意欲が求められます。

<p>学部等名 国際文化学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/international_cultural_re/educationpolicy.html）</p>
<p>（概要）</p> <p>国際文化学部の教育研究上の目的は、建学の精神及びそれらを具現化した4つの力を踏まえ、環境適応力、人間関係構築力、高度な外国語運用能力をもち、国籍や文化の差異を超克して良好かつ平和な人間関係を構築できる「国境なき社会人」としての資質をもった人材を養成することです。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/international_cultural_re/educationpolicy.html）</p>
<p>（概要）</p> <p>国際文化学部では、本学の学位授与の方針に従い、以下の能力を備えたと認められる者に学位を授与します。</p> <p>『知識・理解』</p> <p>世界で起こる様々な情報を知り、それぞれの国・地域にある政治経済・歴史・文化を理解して国際的な視野で世界を考えることができる能力を有している。</p> <p>『汎用的技能』</p> <p>どこの国・地域の人とも積極的に交流し、お互いを理解できるようになるために必要な、語学力と異文化理解能力を有している。</p> <p>『態度・志向性』</p> <p>自分の回りで起きている事柄に対して、どうしてそうなったのか、どうしたらもっとよくなるのかと常に問題解決意識をもちながら論理的に思考し、社会において行動できる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/international_cultural_re/educationpolicy.html）</p>
<p>（概要）</p> <p>国際文化学部が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。</p> <p>『教育課程・学修成果』</p> <p>本学部の初年次教育としては、各学科の主専攻科目において、学部・学科における学修の導入科目となるゼミナールを必修科目として開講し、学部・学科のディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに対する理解を促進し、学術的文章作成、図書館の利用、キャリアデザインに関する基礎知識の修得を図ります。</p> <p>本学部の教育の基礎となる国際政治・経済、世界地理・歴史、国際情勢に関する知識を幅広く修得するために、学部共通科目に「国際文化概論」を必修科目として開講します。また、本学部が設置されている北海道という地域から国際文化に関する知識を修得する目的から、「アイヌの文化」を同じく学部共通科目として開講します。</p> <p>学部独自のキャリア教育としては、学部共通科目に「インターンシップ」を開講し、環境適応力や人間関係構築力を育成する一環として、就業体験を単位化します。</p>

専門教育においては、いずれの学科も、到達段階に応じた体系的な学修を可能にするために、入門・基礎、応用、発展の3段階構成で教育課程が編成します。

ディプロマ・ポリシーである「国境なき社会人」の育成を実現するために、「フィールド指向の実践的教育」を教育方針とし、その教育方針を具現化するために各学科の主専攻科目において国内外のフィールドワーク・インターンシップを単位化します。

3年次・4年次の必修科目である「ゼミナール」と「卒業研究」においては、フィールド指向の実践的教育手法を活用し、学修の成果を論文や作品として集大成し、その成果物は学部・学科のディプロマ・ポリシーに基づいて最終的かつ総合的に評価します。

『学修成果の評価方法』

本学部のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD活動等とおして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/international_cultural_re/educationpolicy.html）

（概要）

国際文化学部の教育研究上の目的及び養成する人材像を理解し、これらを達成するために自ら学ぶ意欲をもった人を求めます。

『求める学生像』

国際文化学部で定めている学位授与のために求められている能力を身に付けることが期待でき、基礎学力が十分にある人材。

『入学者に求める知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

（1）知識・技能

1）英語について

- ①高校での英語の科目の履修を通じて英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身に付けておくことが望ましい。
- ②英検、TOEIC、TOEFL、GTECなどの外部試験を受験していることが望ましい。

2）国語について

- ①高校での国語の履修を通して日本語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。
- ②作文・小論文作成のトレーニングを積んでおくことが望ましい。

3）社会について

- ①社会では、高校での社会の科目（世界史、日本史、地理、政治・経済、倫理、現代社会）を幅広く理解していることが望まれる。
- ②新聞の国際欄を読んで記事の内容を理解できることが望まれる。

4）数学及び理科について

数学及び理科は、文系の学問を学ぶ上で必要な自然科学的な知識を幅広く理解していることが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

1) 論理的思考力について

中学校の数学で学んだ図形の証明問題（合同、相似）を用い、「前提—論拠—結論」という論理的思考のパターンを理解しておくことが望ましい。

2) 表現力について

新聞の社説を書き写し、論説文の構成を理解しておくことが望まれる。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

1) ボランティア活動について

学校内や地域のボランティア活動に積極的に参加する姿勢を身に付けておくことが望ましい。

2) 国際交流活動への参加

学校内や地域で開催される国際交流のイベントに積極的に参加する姿勢を身に付けておくことが望ましい。

学部等名 生物学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/biology/educationpolicy.html ）
<p>（概要）</p> <p>生物学部の教育研究上の目的は、建学の精神及びそれらを具現化した4つの力を踏まえ、人類が培ってきた文化・文明と自然・地球環境を一体とした視野を持ち、生物多様性の保全、生物資源の持続可能な利用を目指す行動型国際人であり、さらに地球と人類の抱える諸問題に対して、陸上と海洋のフィールドにおける理解を深め、文理融合の学際的知識と化学物質から生態系に至る専門知識・技術を主体的・複眼的に活用して、自ら課題に取り組み解決する能力をもった人材を養成することです。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/biology/educationpolicy.html ）
<p>（概要）</p> <p>生物学部では、本学の学位授与の方針に従い、以下の能力を備えたと認められる者に学位を授与します。</p> <p>『知識・理解』</p> <p>生命・自然に関する文理融合的な広い視野を基礎として、各専門分野における専門知識と技術を理解・表現する力を有している。</p> <p>『汎用的技能』</p> <p>科学の動向に精通し、コミュニケーション能力や分析力、提案力など社会から要請される能力を発揮できる。</p> <p>『態度・志向性』</p> <p>生命倫理と生物多様性そして生物資源の重要性を理解して、生物科学の応用によって社会に貢献しようとする姿勢を有している。</p>
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/biology/educationpolicy.html ）
<p>（概要）</p> <p>生物学部が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。</p> <p>『教育課程・学修成果』</p> <p>生物学部は、陸上と海洋の生物を対象とし、実験系分野とフィールド系分野をともに有しています。そして、生命・自然に関する文理融合的な広い視野を基礎として、各専門分野における専門知識と技術を理解・表現する力を有し、文理融合の学際的知識と専門知識・技術を主体的・複眼的に活用して、課題に自ら取り組み解決する能力の育成を目指します。文理融合的な広い視野の養成には、全学で開講する教養科目の他、学部共通科目の「生物と社会」「生命倫理」「生物と職業」「科学英語」を選択必修科目として開講しています。一方、学部共通科目の「統計・データ分析法」と理系のリメディアル科目、多数の主専攻科目により専門知識と技術を学びます。</p> <p>また、科学の動向に精通し、コミュニケーション能力や分析力、提案力など社会から要請される能力を発揮でき、生命倫理と生物多様性そして生物</p>

資源の重要性を理解して、生物科学の応用によって社会に貢献しようとする姿勢の醸成を図ります。この目的で、主専攻科目として学部共通に、「生物学」「化学」「物理学」「数学」等の理系の基盤となる講義科目と実験科目、情報、教職関係科目を開講して広範な科学の動向を把握する一方、学部共通科目の「生物と社会」「生命倫理」「生物と職業」「科学英語」は、生命倫理等を踏まえた社会貢献の姿勢の醸成に与ります。キャリア教育としての「インターンシップ」は、大学のキャリア支援部局との協働により実施されます。また初年次教育としての「フレッシュマンゼミナール」では、大学での学習環境・習慣に早く慣れ、大学独特の学修方法を知るという側面の他、コミュニケーション能力をはじめとするいわゆる汎用的能力を身につける内容にもなっています。

『学修成果の評価方法』

本学部のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、修得単位数・GPAによる分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っています。その集計結果は、FD活動等とおして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/biology/educationpolicy.html>）

（概要）

生物学部の教育研究上の目的及び養成する人材像を理解し、これらを達成するために自ら学ぶ意欲をもった人を求めます。

『求める学生像』

生物学部で定めている学位授与のために求められている能力を身につけることが期待でき、基礎学力が十分にある人材。

『生物学科の入学者に求める知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

（1）知識・技能

英語では、高校での英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

理科では、高校での生物の科目の履修を通して生物の個々の項目の内容を理解していることが望ましい。

国語では、高校での国語の科目の履修を通して日本語の運用に習熟し、読み聞きした日本語の内容を的確に理解し、また表現したいことを精確に記述し話せることが望ましい。

数学、社会、理科等の生物以外の科目の知識を幅広く理解していることが望ましい。

（2）思考力・判断力・表現力

文理融合の観点から、理系の知識・技能と文系の知識・技能を総合して応用できること、及び、それらの発信ができることが望ましい。

（3）主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

多様な価値観を理解し、友好的な人間関係を築くことができること、物事に対して挑戦的に取り組むこと、及び、失敗や挫折を乗り越えて目標を実現しようとする意識を持っていることが望ましい。

『海洋生物科学科の入学者にもとめる知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

英語では、高校での英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

理科では、高校での物理、化学、生物の科目の履修を通して学科の専門内容に関する項目を理解していることが望ましい。

国語では、高校での国語の科目の履修を通して日本語の運用に習熟し、読み聞きした日本語の内容を的確に理解し、また表現したいことを精確に記述し話せることが望ましい。

数学、社会、地学等の生物以外の科目の知識を幅広く理解していることが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

文理融合の観点から、理系の知識・技能と文系の知識・技能を総合して応用できること、及び、それらの発信ができることが望ましい。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

多様な価値観を理解し、友好的な人間関係を築くことができること、物事に対して挑戦的に取り組むこと、及び、失敗や挫折を乗り越えて目標を実現しようとする意識を持っていることが望ましい。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.u-tokai.ac.jp/about/profile/organization/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）

学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	8人	—					8人
文学部	—	23人	8人	6人	0人	0人	37人
文化社会学部	—	31人	12人	8人	0人	0人	51人
政治経済学部	—	22人	7人	5人	0人	0人	34人
法学部	—	11人	5人	4人	0人	0人	20人
教養学部	—	17人	13人	4人	0人	0人	34人
体育学部	—	35人	20人	7人	3人	0人	65人
健康学部	—	9人	6人	7人	2人	0人	24人
理学部	—	45人	21人	12人	1人	0人	79人
情報理工学部	—	13人	4人	0人	3人	0人	20人
工学部	—	93人	32人	13人	9人	0人	147人
観光学部	—	8人	3人	2人	0人	0人	13人
情報通信学部	—	20人	9人	5人	1人	0人	35人
海洋学部	—	36人	17人	7人	2人	0人	62人
医学部（医学科）	—	126人	101人	152人	266人	0人	645人
医学部（看護学科）	—	10人	6人	14人	4人	0人	34人
健康科学部	—	1人	3人	1人	0人	0人	5人
経営学部	—	11人	5人	3人	1人	0人	20人
基盤工学部	—	12人	4人	1人	0人	0人	17人
農学部	—	16人	3人	8人	2人	0人	29人
国際文化学部	—	20人	6人	6人	1人	0人	33人
生物学部	—	9人	6人	3人	1人	0人	19人
附置研究所	—	13人	3人	7人	3人	0人	26人
教養部	—	48人	56人	41人	5人	0人	150人

b. 教員数（兼務者）

学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
0人	1236人	1236人

各教員の有する学位及び業績（教員データベース等）
公表方法：<https://www.u-tokai.ac.jp/staffsearch/>
<https://www24.tsc.u-tokai.ac.jp/kyn/!kyk0010>

c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）

1. 全学的に組織的なFDを实践
- (1) 常任FD委員会を規程とともに設置し、定期的に委員会を開催している。当委員会の下、各学部等でのFD委員会を組織し、具体的なFD活動を組織的に実践している。
 - (2) 教育支援センターでは、各種調査分析、研修会等により全学的なFDを推進している。
2. FD活動を学内外へ公開
- (1) FD活動の結果は、年報、広報誌、教育支援センターホームページを通じて学内外へ公開している。
 - (2) 年間を通じての具体的な活動は、FD活動報告書として学内公開している。

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
文学部	370人	355人	95.9%	2040人	2146人	105.2%	0人	2人
文化社会学部	450人	432人	96.0%	1350人	1335人	98.9%	0人	人
政治経済学部	480人	468人	97.5%	1890人	1906人	100.8%	0人	人
法学部	300人	270人	90.0%	1200人	1220人	101.7%	0人	人
教養学部	330人	329人	99.7%	1320人	1357人	102.8%	0人	1人
体育学部	480人	483人	100.6%	1880人	1894人	100.7%	0人	人
健康学部	200人	204人	102.0%	600人	605人	100.8%	0人	人
理学部	320人	310人	96.9%	1280人	1253人	97.9%	0人	人
情報理工学部	200人	204人	102.0%	800人	829人	103.6%	0人	人
工学部	1390人	1455人	104.7%	5630人	5761人	102.3%	0人	2人
観光学部	200人	202人	101.0%	800人	831人	103.9%	0人	1人
情報通信学部	320人	320人	100.0%	1280人	1340人	104.7%	0人	5人
海洋学部	530人	548人	103.4%	2120人	2132人	100.6%	0人	人
医学部（医学科）	118人	103人	87.3%	705人	706人	100.1%	0人	人
医学部（看護学科）	85人	82人	96.5%	255人	246人	96.5%	0人	人
健康科学部	0人	0人	0.0%	160人	180人	112.5%	0人	人
経営学部	230人	229人	99.6%	920人	888人	96.5%	0人	4人
基盤工学部	140人	122人	87.1%	560人	396人	70.7%	0人	1人
農学部	230人	201人	87.4%	920人	821人	89.2%	0人	2人
国際文化学部	260人	273人	105.0%	1040人	1011人	97.2%	0人	2人
生物学部	140人	142人	101.4%	560人	561人	100.2%	0人	人
合計	6773人	6732人	99.4%	27310人	27418人	100.4%	0人	20人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数

学部等名				
	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
文学部	939人 (100%)	22人 (2.3%)	750人 (79.9%)	167人 (17.8%)
文化社会学部	0人 (100%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
政治経済学部	433人 (100%)	8人 (1.8%)	349人 (80.6%)	76人 (17.6%)
法学部	252人 (100%)	2人 (0.8%)	183人 (72.6%)	67人 (26.6%)
教養学部	347人 (100%)	13人 (3.7%)	261人 (75.2%)	73人 (21.0%)
体育学部	457人 (100%)	12人 (2.6%)	387人 (84.7%)	58人 (12.7%)
健康学部	0人 (100%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
理学部	295人 (100%)	37人 (12.5%)	232人 (78.6%)	26人 (8.8%)
情報理工学部	185人 (100%)	17人 (9.2%)	154人 (83.2%)	14人 (7.6%)
工学部	1,357人 (100%)	229人 (16.9%)	1,003人 (73.9%)	125人 (9.2%)
観光学部	214人 (100%)	0人 (0%)	198人 (92.5%)	16人 (7.5%)
情報通信学部	293人 (100%)	28人 (9.6%)	238人 (81.2%)	27人 (9.2%)
海洋学部	478人 (100%)	32人 (6.7%)	411人 (86.0%)	35人 (7.3%)
医学部(医学科)	103人 (100%)	0人 (0%)	0人 (0%)	103人 (100%)
医学部(看護学科)	0人 (100%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
健康科学部	151人 (100%)	6人 (4.0%)	137人 (90.7%)	8人 (5.3%)
経営学部	180人 (100%)	0人 (0%)	163人 (90.6%)	17人 (9.4%)
基盤工学部	75人 (100%)	2人 (2.7%)	64人 (85.3%)	9人 (12.0%)
農学部	204人 (100%)	14人 (6.9%)	174人 (85.3%)	16人 (7.8%)
国際文化学部	182人 (100%)	1人 (0.5%)	165人 (90.7%)	16人 (8.8%)
生物学部	136人 (100%)	7人 (5.1%)	117人 (86.0%)	12人 (8.8%)
合計	6,281人 (100%)	430人 (6.8%)	4,986人 (79.4%)	865人 (13.8%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
主な就職先については本学HPに記載 (https://www.u-tokai.ac.jp/career/data/employment/)				
(備考) 文化社会学部、健康学部、医学部看護学科は、2018年度開設のため卒業生なし。				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>本学では、教育課程年度ならびに開講授業科目毎にシラバスを作成・公表している。</p> <p>シラバスの内容は、授業の目標、先修条件または他の授業科目との関連、履修のポイント・留意事項、担当教員名、テーマ、キーワード、授業要旨または授業概要、学修の到達目標、授業計画（スケジュール、予習・復習、集中授業の期間）、履修上の注意点、成績評価の基準および方法、教科書・参考書、その他の教材である。</p> <p>シラバスは、担当教員がシラバスデータベースシステム上で上記項目を入力後、科目管理者が点検・承認するというプロセスを経て公開される。</p> <p>公表時期については、当該授業科目開講前に本学ホームページへ掲載し、広く周知している。</p>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>本学は、創立者松前重義の示した建学の精神を受け継ぎ「明日の歴史を担う強い使命感と豊かな人間性をもった人材を育てること」を目指している。そのために、大学として、教育目標と学位授与方針及び育成する人材像（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー）として明確に設定し、公表している。</p> <p>卒業・修了要件については、学則並びに授業要覧に明示されており、成績評価及び単位認定、学位論文の提出と審査のほか、学部及び大学での卒業判定会議、修了判定会議、学位審査を行っており、卒業・修了の判定を適切に行うための措置がなされて、より適切な学位授与が行われている。</p>
--

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
文学部	文明学科	124 単位	○・無	24 単位
	アジア文明学科	124 単位	○・無	24 単位
	ヨーロッパ文明 学科	124 単位	○・無	24 単位
	アメリカ文明学 科	124 単位	○・無	24 単位
	北欧学科	124 単位	○・無	24 単位

	歴史学科	124 単位	④・無	24 単位
	日本文学科	124 単位	④・無	24 単位
	文芸創作学科	124 単位	④・無	24 単位
	英語文化コミュニケーション学科	124 単位	④・無	24 単位
	広報メディア学科	124 単位	④・無	24 単位
	心理・社会学科	124 単位	④・無	24 単位
文化社会学部	アジア学科	124 単位	④・無	24 単位
	ヨーロッパ・アメリカ学科	124 単位	④・無	24 単位
	北欧学科	124 単位	④・無	24 単位
	文芸創作学科	124 単位	④・無	24 単位
	広報メディア学科	124 単位	④・無	24 単位
	心理・社会学科	124 単位	④・無	24 単位
政治経済学部	政治学科	124 単位	④・無	24 単位
	経済学科	124 単位	④・無	24 単位
	経営学科	124 単位	④・無	24 単位
法学部	法律学科	124 単位	④・無	24 単位
教養学部	人間環境学科	124 単位	④・無	24 単位
	芸術学科	124 単位	④・無	24 単位
	国際学科	124 単位	④・無	24 単位
体育学部	体育学科	124 単位	④・無	24 単位
	競技スポーツ学科	124 単位	④・無	24 単位
	武道学科	124 単位	④・無	24 単位
	生涯スポーツ学科	124 単位	④・無	24 単位
	スポーツ・レジヤーマネジメント学科	124 単位	④・無	24 単位
健康学部	健康マネジメント学科	124 単位	④・無	24 単位
理学部	数学科	124 単位	④・無	24 単位
	情報数理学科	124 単位	④・無	24 単位
	物理学科	124 単位	④・無	24 単位
	化学科	124 単位	④・無	24 単位
情報理工学部	情報科学科	124 単位	④・無	24 単位

	コンピュータ応用工学科	124 単位	⑦・無	24 単位
工学部	生命化学科	124 単位	⑦・無	24 単位
	応用化学科	124 単位	⑦・無	24 単位
	光・画像工学科	124 単位	⑦・無	24 単位
	原子力工学科	124 単位	⑦・無	24 単位
	電気電子工学科	124 単位	⑦・無	24 単位
	材料科学科	124 単位	⑦・無	24 単位
	建築学科	124 単位	⑦・無	24 単位
	土木工学科	124 単位	⑦・無	24 単位
	精密工学科	124 単位	⑦・無	24 単位
	機械工学科	124 単位	⑦・無	24 単位
	動力機械工学科	124 単位	⑦・無	24 単位
	航空宇宙学科	124 単位	⑦・無	24 単位
	医用生体工学科	124 単位	⑦・無	24 単位
観光学部	観光学科	124 単位	⑦・無	24 単位
情報通信学部	情報メディア学科	124 単位	⑦・無	24 単位
	組込みソフトウェア工学科	124 単位	⑦・無	24 単位
	経営システム工学科	124 単位	⑦・無	24 単位
	通信ネットワーク工学科	124 単位	⑦・無	24 単位
海洋学部	海洋文明学科	124 単位	⑦・無	24 単位
	環境社会学科	124 単位	⑦・無	24 単位
	海洋地球科学科	124 単位	⑦・無	24 単位
	水産学科	124 単位	⑦・無	24 単位
	海洋生物学科	124 単位	⑦・無	24 単位
	航海工学科	124 単位	⑦・無	24 単位
医学部	医学科	197 単位	⑦・無	24 単位
	看護学科	125 単位	⑦・無	24 単位
健康科学部	看護学科	124 単位	⑦・無	24 単位
	社会福祉学科	124 単位	⑦・無	24 単位
経営学部	経営学科	124 単位	⑦・無	24 単位
	観光ビジネス学科	124 単位	⑦・無	24 単位
基盤工学部	電気電子情報工学科	124 単位	⑦・無	24 単位
	医療福祉工学科	124 単位	⑦・無	24 単位

農学部	応用植物科学科	124 単位	⑦・無	24 単位
	応用動物科学科	124 単位	⑦・無	24 単位
	バイオサイエンス学科	124 単位	⑦・無	24 単位
国際文化学部	地域創造学科	124 単位	⑦・無	24 単位
	国際コミュニケーション学科	124 単位	⑦・無	24 単位
	デザイン文化学科	124 単位	⑦・無	24 単位
生物学部	生物学科	124 単位	⑦・無	24 単位
	海洋生物科学科	124 単位	⑦・無	24 単位
G P A の活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 : https://www.utokai.ac.jp/effort/activity/teacher_training/		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法 : <https://www.u-tokai.ac.jp/about/campus/>
<https://www.u-tokai.ac.jp/about/research/facilities/library/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	学年	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載 事項)
文学部 (改組後)	歴史学科 (考古学専攻)	1年生	770,000	300,000	407,000	教育運営費等
		2年生	770,000	0	407,000	教育運営費等
		3年生	650,000	0	527,000	教育運営費等
		4年生	0	0	0	
文学部 (改組後)	文明学科、歴史 学科 (日本史専攻、 西洋史専攻)、 日本文学科、英 語文化コミュニ ケーション	1年生	770,000	300,000	396,000	教育運営費等
		2年生	770,000	0	396,000	教育運営費等
		3年生	650,000	0	516,000	教育運営費等
		4年生	0	0	0	
文学部 (改組前)	歴史学科(考古 学専攻), 広報 メディア学科, 心 理・社会学科	1年生	0	0	0	
		2年生	0	0	0	
		3年生	0	0	0	
		4年生	650,000	0	527,000	教育運営費等
	文明学科、アジ ア文明学科、ヨ ーロッパ文明学 科、北欧学科、 歴史学科(日本 史専攻、東洋史 専攻、西洋史専 攻)、日本文学 科、文芸創作学 科、英語コミュ ニケーション学 科	1年生	0	0	0	
		2年生	0	0	0	
		3年生	0	0	0	
		4年生	650,000	0	516,000	教育運営費等
文化社会 学部	広報メディア学科, 心理・社会学科	1年生	770,000	300,000	407,000	教育運営費等
		2年生	770,000	0	407,000	教育運営費等
		3年生	650,000	0	527,000	教育運営費等
		4年生	0	0	0	
	アジア学科、ヨ ーロッパ・アメ リカ学科、北欧 学科、文芸創作 学科	1年生	770,000	300,000	396,000	教育運営費等
		2年生	770,000	0	396,000	教育運営費等
		3年生	650,000	0	516,000	教育運営費等
		4年生	0	0	0	

政治経済学部		1年生	770,000	300,000	407,000	教育運営費等
		2年生	770,000	0	407,000	教育運営費等
		3年生	650,000	0	544,000	教育運営費等
		4年生	650,000	0	544,000	教育運営費等
法学部		1年生	770,000	300,000	396,000	教育運営費等
		2年生	770,000	0	396,000	教育運営費等
		3年生	650,000	0	516,000	教育運営費等
		4年生	650,000	0	516,000	教育運営費等
教養学部	人間環境学科 (社会環境課程)、国際学科	1年生	855,000	300,000	407,000	教育運営費等
		2年生	855,000	0	407,000	教育運営費等
		3年生	735,000	0	527,000	教育運営費等
		4年生	735,000	0	527,000	教育運営費等
	人間環境学科 (自然環境課程)	1年生	855,000	300,000	449,000	教育運営費等
		2年生	855,000	0	449,000	教育運営費等
		3年生	735,000	0	569,000	教育運営費等
		4年生	735,000	0	569,000	教育運営費等
	芸術学科 (音楽学課程)	1年生	855,000	300,000	748,000	教育運営費等
		2年生	855,000	0	748,000	教育運営費等
		3年生	735,000	0	868,000	教育運営費等
		4年生	735,000	0	868,000	教育運営費等
	芸術学科 (美術学課程)	1年生	855,000	300,000	579,000	教育運営費等
		2年生	855,000	0	579,000	教育運営費等
		3年生	735,000	0	699,000	教育運営費等
		4年生	735,000	0	699,000	教育運営費等
	芸術学科 (デザイン学課程)	1年生	855,000	300,000	559,000	教育運営費等
		2年生	855,000	0	559,000	教育運営費等
		3年生	735,000	0	679,000	教育運営費等
		4年生	735,000	0	679,000	教育運営費等
体育学部	生涯スポーツ学科	1年生	821,000	300,000	455,000	教育運営費等
		2年生	821,000	0	462,000	教育運営費等
		3年生	701,000	0	527,000	教育運営費等
		4年生	701,000	0	527,000	教育運営費等
	体育学科、協議	1年生	821,000	300,000	407,000	教育運営費等

	スポーツ学科、 武道学科、スポ ーツ・レジャー マネジメント学 科	2年生	821,000	0	407,000	教育運営費等
		3年生	701,000	0	527,000	教育運営費等
		4年生	701,000	0	527,000	教育運営費等
健康学部		1年生	770,000	300,000	407,000	教育運営費等
		2年生	770,000	0	407,000	教育運営費等
		3年生	650,000	0	527,000	教育運営費等
		4年生	0	0	0	
理学部		1年生	855,000	300,000	449,000	教育運営費等
		2年生	855,000	0	449,000	教育運営費等
		3年生	735,000	0	569,000	教育運営費等
		4年生	735,000	0	569,000	教育運営費等
情報理工 学部		1年生	855,000	300,000	449,000	教育運営費等
		2年生	855,000	0	449,000	教育運営費等
		3年生	735,000	0	569,000	教育運営費等
		4年生	735,000	0	569,000	教育運営費等
工学部	航空宇宙学科 (航空操縦学専 攻)	1年生	855,000	300,000	750,000	教育運営費等
		2年生	855,000	0	850,000	教育運営費等
		3年生	735,000	0	970,000	教育運営費等
		4年生	735,000	0	970,000	教育運営費等
	生命化学科、応 用化学科、光・ 画像工学科、電 気電子工学科、 材料科学科、建 築学科、土木工 学科、精密工学 科、機械工学 科、動力機械工 学科、航空宇宙 学科(航空宇宙 学専攻)、医用 生体工学科	1年生	855,000	300,000	449,000	教育運営費等
		2年生	855,000	0	449,000	教育運営費等
		3年生	735,000	0	569,000	教育運営費等
		4年生	735,000	0	569,000	教育運営費等
		1年生	855,000	300,000	449,000	教育運営費等
		2年生	855,000	0	449,000	教育運営費等
3年生	735,000	0	569,000	教育運営費等		
4年生	735,000	0	569,000	教育運営費等		
観光学部		1年生	770,000	300,000	407,000	教育運営費等
		2年生	770,000	0	407,000	教育運営費等
		3年生	650,000	0	527,000	教育運営費等
		4年生	650,000	0	527,000	教育運営費等
情報通信 学部		1年生	855,000	300,000	449,000	教育運営費等
		2年生	855,000	0	449,000	教育運営費等
		3年生	735,000	0	569,000	教育運営費等
		4年生	735,000	0	569,000	教育運営費等
海洋学部	環境社会学科	1年生	770,000	300,000	488,000	教育運営費等

		2年生	770,000	0	488,000	教育運営費等
		3年生	650,000	0	608,000	教育運営費等
		4年生	650,000	0	608,000	教育運営費等
	海洋文明学科	1年生	770,000	300,000	477,000	教育運営費等
		2年生	770,000	0	477,000	教育運営費等
		3年生	650,000	0	597,000	教育運営費等
		4年生	650,000	0	597,000	教育運営費等
	海洋地球科学 科、水産学科、 海洋学科、海洋 生物学科、航海 工学科	1年生	855,000	300,000	530,000	教育運営費等
		2年生	855,000	0	530,000	教育運営費等
		3年生	735,000	0	650,000	教育運営費等
		4年生	735,000	0	650,000	教育運営費等
	医学部	医学科	1年生	2,148,000	1,000,000	3,252,000
2年生			2,148,000	0	3,572,000	教育運営費等
3年生			2,148,000	0	3,572,000	教育運営費等
4年生			2,148,000	0	3,572,000	教育運営費等
5年生			2,148,000	0	3,572,000	教育運営費等
6年生			2,148,000	0	3,572,000	教育運営費等
看護学科		1年生	855,000	300,000	449,000	教育運営費等
		2年生	855,000	0	449,000	教育運営費等
		3年生	735,000	0	569,000	教育運営費等
		4年生	0	0	0	
健康科学 部	看護学科	1年生	0	0	0	
		2年生	0	0	0	
		3年生	0	0	0	
		4年生	735,000	0	569,000	教育運営費等
	社会福祉学科	1年生	0	0	0	
		2年生	0	0	0	
		3年生	0	0	0	
		4年生	650,000	0	527,000	教育運営費等
経営学部		1年生	600,000	200,000	350,000	教育運営費等
		2年生	600,000	0	350,000	教育運営費等
		3年生	600,000	0	350,000	教育運営費等
		4年生	600,000	0	350,000	教育運営費等
基盤工学 部		1年生	785,000	200,000	449,000	教育運営費等
		2年生	785,000	0	449,000	教育運営費等
		3年生	735,000	0	499,000	教育運営費等
		4年生	735,000	0	499,000	教育運営費等
農学部		1年生	785,000	200,000	449,000	教育運営費等
		2年生	785,000	0	449,000	教育運営費等

		3年生	735,000	0	499,000	教育運営費等
		4年生	735,000	0	499,000	教育運営費等
国際文化学部		1年生	700,000	200,000	407,000	教育運営費等
		2年生	700,000	0	407,000	教育運営費等
		3年生	650,000	0	457,000	教育運営費等
		4年生	650,000	0	457,000	教育運営費等
生物学部	生物学科	1年生	785,000	200,000	449,000	教育運営費等
		2年生	785,000	0	449,000	教育運営費等
		3年生	735,000	0	499,000	教育運営費等
		4年生	735,000	0	499,000	教育運営費等
	海洋生物科学科	1年生	785,000	200,000	489,000	教育運営費等
		2年生	785,000	0	490,000	教育運営費等
		3年生	735,000	0	499,000	教育運営費等
		4年生	735,000	0	499,000	教育運営費等

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

(概要)

東海大学には、キャンパスライフをより豊かにするために、学内との多様なネットワーク体制を整備しており、それぞれ専門のスタッフが学生の相談や指導にあっている。相談内容に応じて、最もふさわしい部門やセンターを案内している湘南キャンパスの湘南学生支援課CLICのほか、各キャンパスに専門的な知識とスキルを持ったカウンセラーが援助する学生相談窓口も設置している。また、学生たちによる社会貢献や国際貢献、ものづくりなど様々な活動を支援しているチャレンジセンターもある。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

キャリア就職センターでは、就職活動を行う3年次・4年次の学生、大学院生のみならず入学早々の段階から学生1人ひとりの就職・進路に関してきめ細かい様々なサポートを行う。これまで実施してきた「学生の就職支援も教育の一環」の精神と実績を活かし、学生諸君の就職支援のほか、入学早々の時期から将来に向けたキャリアデザインの支援が当センターの柱であると考えている。全学部を設置された就職委員会、教学部、校友会、ご父母で構成される後援会、同窓会と連携し、より良い学生諸君の希望する進路が実現できるよう、様々なプログラムを用意している。具体的には、キャリア教育プログラム（低学年次生用、高学年次生用）、専門家による個別進路および就職相談、インターンシップ東海JOB-LEAGUE（就業体験）、就職ガイダンス、資格取得支援講座、実学講座など様々なプログラムを学内で開催している。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

健康推進センターは、病気の早期発見や健康の保持増進に努め、学生および教職員が心身共に健康で快適なキャンパスライフを送れるようサポートしている。センターには東海大学病院の医師をはじめ、学生、教職員のそれぞれに担当保健師がおり、様々な保健サービスを提供している。

主な業務内容として、定期健診、特別健診（クラブ健診、体育学部特別健診、放射線取扱者健診、派遣留学生健診）などの健康診断や、応急手当てなどの救急処置、病気相談、医療機関の

紹介などがある。授業期間内には東海大学病院の内科系（曜日ごとに消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、腎・代謝内科と入れ替わり）と精神科の担当医師が常駐し、センター内で診察も受けられる。学生や教職員の心身の悩み相談にも、気軽に応じている。

また、学生に身近な健康問題を取り上げて、「健康教育」も積極的に行っている。アルコール、タバコ、肥満、食生活、性感染症、救急蘇生法などをテーマに、センター主催の「健康教室」を開催している。学生や教職員、地域住民なども対象に、各自の健康管理の意識を高めることが目的である。これらの開催情報は、センターのウェブサイトでも掲載し、毎回多くの方々が参加している。

そのほか、病気休学者・復学者へのフォローや、ご父母からの健康電話相談も受け付けている。気軽に利用できるセルフチェックコーナーも設置し、血圧や体重、視力、体脂肪の測定、アルコールパッチテストなどのヘルスチェックも行っている。

このように、健康推進センターでは、医師・保健師・事務スタッフが一丸となって、学生、教職員、地域住民の健康管理をサポートし、保健サービスを提供していく。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：https://www.u-tokai.ac.jp/public_information/